「人生で直面する困難にどのように対処すればよいか、だれも教えてくれなかった」

今の日本の中学生が学びたいと考えていること——それは、まわりの人と仲よく付き合う力、そして自分の考えを言葉で伝える力です（文部科学省「義務教育に関する意識調査」2005年6月）

ライオンズクエストは、それにこたえます。

ライオンズクエスト・プログラムはコミュニケーションや感情のコントロールなど、青少年が日々経験する困難を建設的に解決し、よりよく生きる力を学ぶ、教育プログラムです。日本では2008年8月末現在、4,300人を超える教育関係者が研修を受け、全国多数の小・中・高校で実施されています。

●ライオンズクエスト・プログラム（LCIF四大交付金）導入地区●

330-A地区（東京都）、330-C地区（埼玉県）、331-A地区（北海道・道央）、331-B地区（北海道・道東、道北）、331-C地区（北海道・道南）、332-B地区（岩手県）、332-C地区（宮城県）、332-E地区（山形県）、333-B地区（栃木県）、333-C地区（千葉県）、334-B地区（岐阜県、三重県）、334-D地区（富山県、石川県、福井県）、335-A地区（兵庫県・東）、335-B地区（大阪府、和歌山県）、335-C地区（滋賀県、京都府、奈良県）、335-D地区（兵庫県・西）、336-A地区（徳島県、高知県、香川県、愛媛県）、337-C地区（佐賀県、長崎県）、337-D地区（熊本県、鹿児島県、沖縄県）

THE LION MAGAZINE IN JAPAN
December 2008, Vol.51 No.6

We Serve CONTENTS

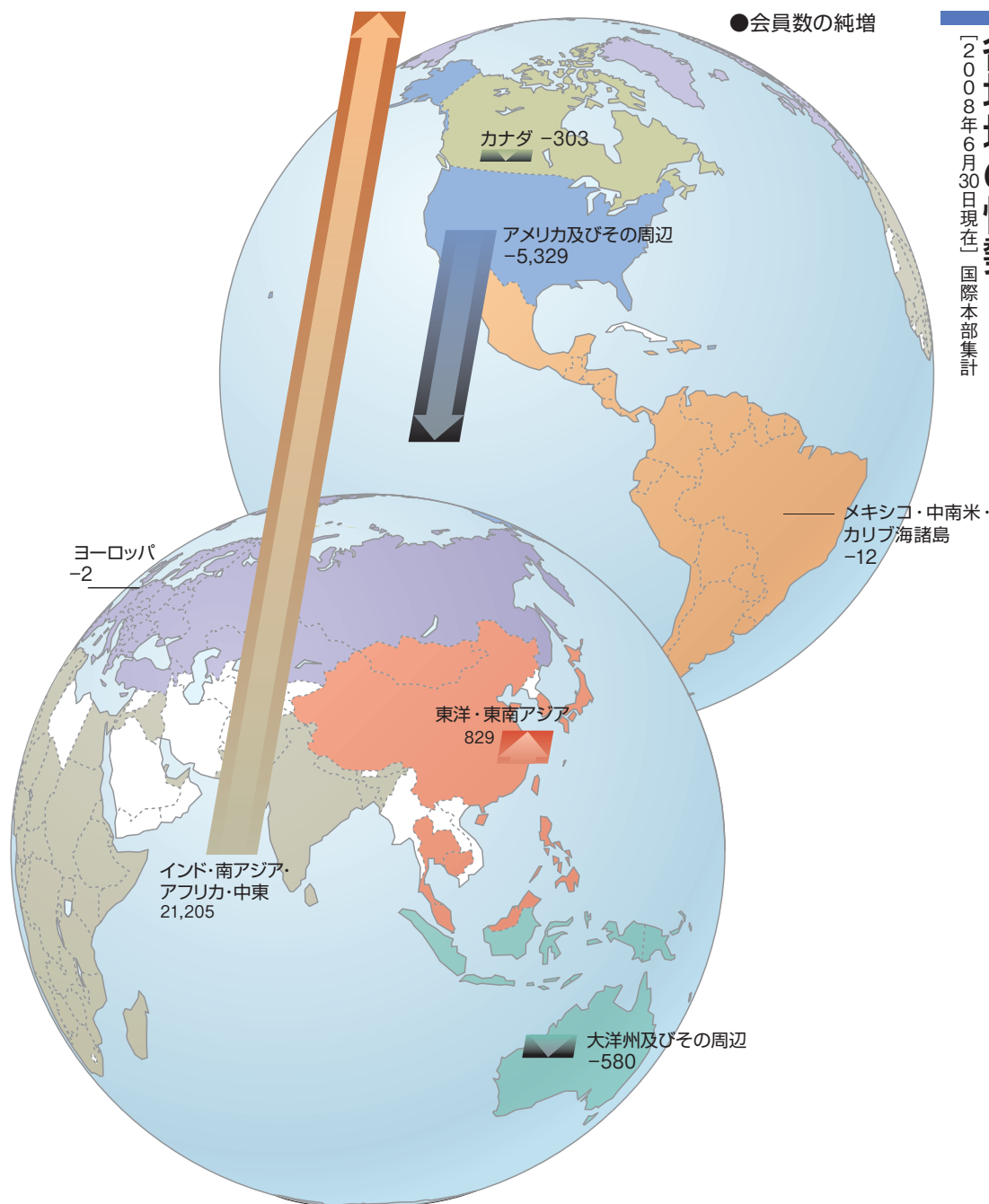
2008年12月号　表紙
鳥取県若桜町
蔵通り
■詳細はウェブマガジンで
https://www.thelion-mag.jp

2007・08年度 ライオンズクラブ統計

世界と日本のライオンズクラブの情勢、クラブ・アンケート調査結果、アクティビティ年間集計を掲載

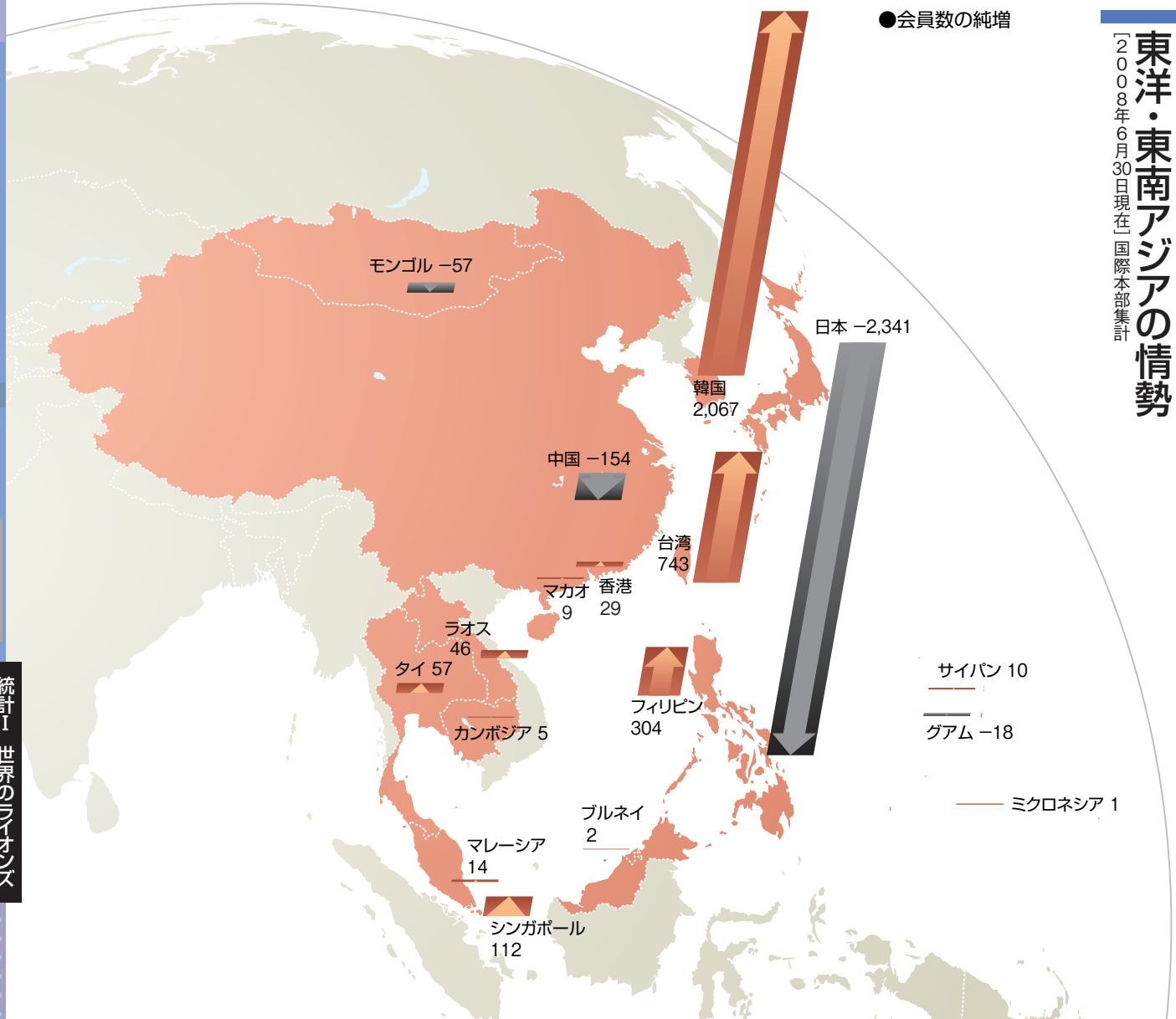
各地域の情勢

［2008年6月30日現在］国際本部集計

●会員数の純増

地域	クラブ数	結成	解散	純増減	クラブ数比	会員数	新入	退会	純増減	会員数比
アメリカ及びその周辺	12,936	207	358	−151	28.7	386,087	43,472	48,801	−5,329	29.5
カナダ	1,690	15	39	−24	3.8	40,162	4,190	4,493	−303	3.1
メキシコ・中南米・カリブ海諸島	3,860	88	208	−120	8.6	92,190	12,972	12,984	−12	7.1
ヨーロッパ	9,541	153	138	15	21.2	271,732	21,624	21,626	−2	20.8
インド・南アジア・アフリカ・中東	7,630	1,028	702	326	17	213,331	54,752	33,547	21,205	16.3
東洋・東南アジア	7,478	202	157	45	16.6	259,370	40,802	39,973	829	19.9
大洋州及びその周辺	1,862	25	62	−37	4.1	42,766	5,470	6,050	−580	3.3
合計	44,997	1,718	1,664	54	100	1,305,638	183,282	167,474	15,808	100

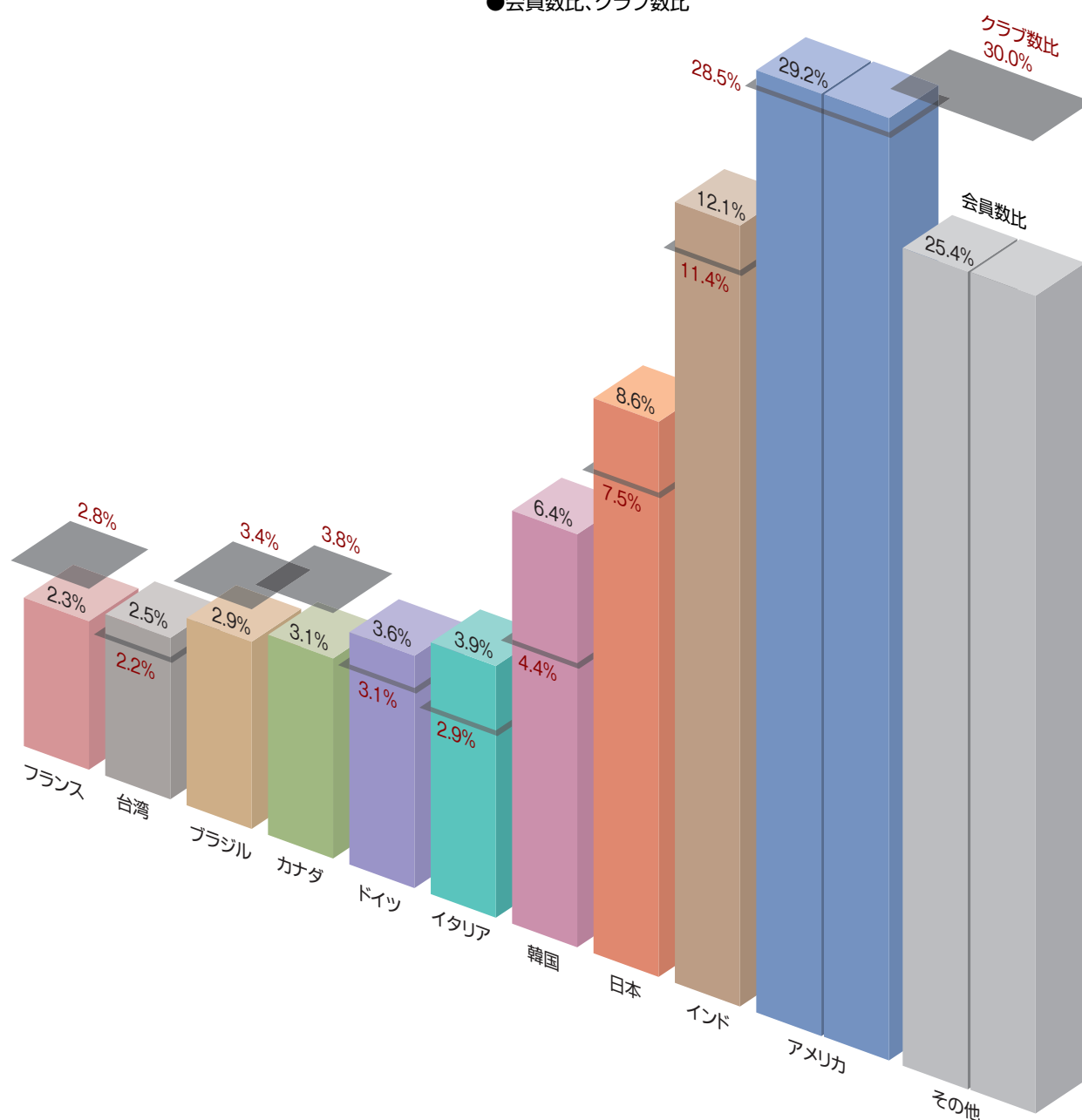
※年度末クラブ数・会員数には、ステータス・クオも含む

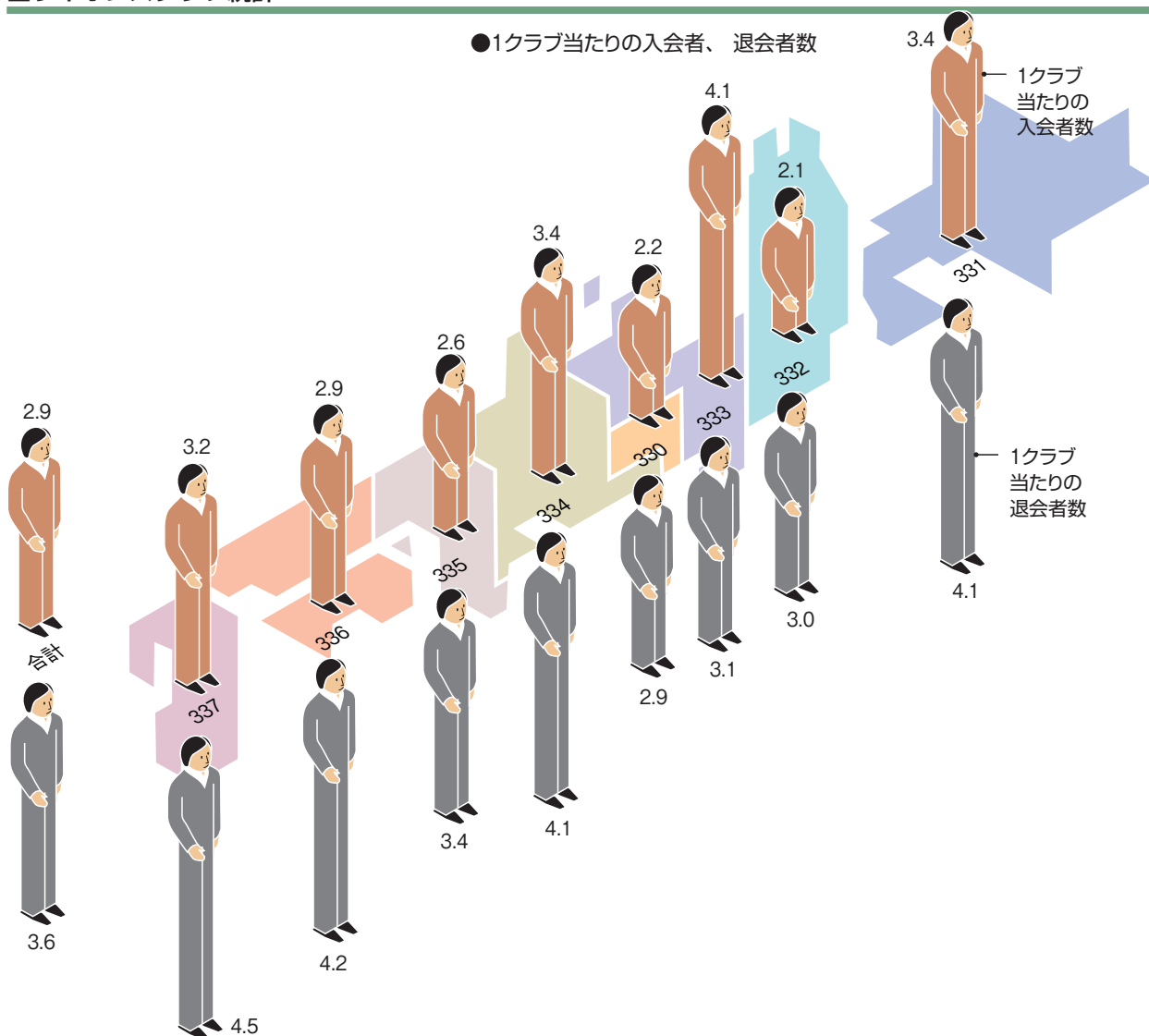
東洋・東南アジアの情勢

［2008年6月30日現在］国際本部集計

地域	クラブ数	結成	解散	純増減	クラブ数比	会員数	新入	退会	純増減	会員数比
グアム	14	0	2	−2	0.2	383	48	66	−18	0.1
ミクロネシア	1	0	0	0	0	12	12	11	1	0
サイパン	3	1	0	1	0	51	36	26	10	0
台湾	988	22	10	12	13.2	32,782	6,609	5,866	743	12.6
フィリピン	338	36	36	0	4.5	9,889	2,730	2,426	304	3.8
香港	60	0	0	0	0.8	1,362	173	144	29	0.5
マカオ	2	0	0	0	0	49	9	0	9	0
マレーシア	242	6	5	1	3.2	6,452	858	844	14	2.5
シンガポール	71	3	2	1	0.9	1,767	302	190	112	0.7
ブルネイ	2	0	0	0	0	36	2	0	2	0
タイ	292	20	23	−3	3.9	8,398	1,372	1,315	57	3.2
日本	3,383	29	32	−3	45.2	112,519	9,977	12,318	−2,341	43.4
韓国	1,988	77	43	34	26.6	83,629	17,988	15,921	2,067	32.2
中国	86	6	1	5	1.2	1,848	603	757	−154	0.7
モンゴル	4	0	2	−2	0.1	83	12	69	−57	0
カンボジア	3	1	1	0	0	64	25	20	5	0
ラオス	1	1	0	1	0	46	46	0	46	0
合計	7,478	202	157	45	100	259,370	40,802	39,973	829	100

主要10カ国の情勢

［2008年6月30日現在］国際本部集計

●会員数比、クラブ数比

	クラブ数	結成	解散	純増減	クラブ数比	会員数	新入	退会	純増減	会員数比
アメリカ	12,814	206	348	–142	28.5	381,667	43,142	48,208	–5,066	29.2
インド	5,138	659	394	265	11.4	157,456	38,949	20,439	18,510	12.1
日本	3,383	29	32	–3	7.5	112,519	9,977	12,318	–2,341	8.6
韓国	1,988	77	43	34	4.4	83,629	17,988	15,921	2,067	6.4
イタリア	1,308	28	9	19	2.9	50,276	4,199	3,873	326	3.9
ドイツ	1,397	22	4	18	3.1	46,866	2,930	2,056	874	3.6
カナダ	1,688	15	39	–24	3.8	40,108	4,182	4,491	–309	3.1
ブラジル	1,514	22	99	–77	3.4	37,638	5,387	5,368	19	2.9
台湾	988	22	10	12	2.2	32,782	6,609	5,866	743	2.5
フランス	1,241	8	12	–4	2.8	29,483	2,438	2,906	–468	2.3
その他	13,538	630	674	–44	30.0	333,214	47,481	46,028	1,453	25.4
合計	44,997	1,718	1,664	54	100	1,305,638	183,282	167,474	15,808	100

＊年度末クラブ数・会員数には、ステータス・クオも含む

日本の複合地区・準地区情勢

［2008年6月30日］国際本部集計

複合地区・準地区	クラブ数	クラブ増減	会員数	会員増減	1クラブ当たり入会者	1クラブ当たり退会者	平均会員数
330-A	206	2	5,190	−88	2.4	2.8	25.2
330-B	192	0	5,235	−248	2.2	3.5	27.3
330-C	104	−1	2,838	−22	1.9	2.1	27.3
330小計	502	1	13,263	−358	2.2	2.9	26.4
331-A	77	−2	2,744	−17	4.5	4.7	35.6
331-B	93	−2	2,771	−107	2.3	3.5	29.8
331-C	61	0	1,956	−52	3.5	4.4	32.1
331小計	231	−4	7,471	−176	3.4	4.1	32.3
332-A	69	1	1,994	−39	2.3	2.9	28.9
332-B	55	−1	1,730	−43	2.3	3.0	31.5
332-C	83	0	1,582	−105	1.1	2.4	19.1
332-D	77	0	2,115	−58	2.3	3.1	27.5
332-E	58	1	1,934	−23	2.8	3.2	33.3
332-F	52	−2	1,373	−76	2.4	3.8	26.4
332小計	394	−1	10,728	−344	2.1	3.0	27.2
333-A	80	0	3,032	61	3.9	3.2	37.9
333-B	57	1	1,423	53	3.3	2.4	25.0
333-C	135	4	3,594	72	3.8	3.3	26.6
333-D	55	−1	2,056	−12	3.6	3.8	37.4
333-E	81	1	3,062	239	5.8	2.8	37.8
333小計	408	5	13,167	413	4.1	3.1	32.3

複合地区・準地区	クラブ数	クラブ増減	会員数	会員増減	1クラブ当たり入会者	1クラブ当たり退会者	平均会員数
334-A	119	1	5,767	−68	3.7	4.2	48.5
334-B	88	1	3,924	−71	3.6	4.4	44.6
334-C	84	0	3,371	−101	2.8	4.0	40.1
334-D	101	1	4,288	−22	3.5	3.7	42.5
334-E	53	0	2,219	−47	3.0	3.9	41.9
334小計	445	3	19,569	−309	3.4	4.1	44.0
335-A	109	3	2,891	27	2.8	2.6	26.5
335-B	204	0	6,722	−178	2.7	3.6	33.0
335-C	123	0	4,406	−164	2.4	3.7	35.8
335-D	66	−3	2,180	−105	2.1	3.7	33.0
335小計	502	0	16,199	−420	2.6	3.4	32.3
336-A	156	0	6,188	−173	3.5	4.6	39.7
336-B	99	−2	3,549	−138	2.9	4.3	35.8
336-C	104	−2	3,915	−119	2.6	3.7	37.6
336-D	107	−2	3,512	−155	2.6	4.0	32.8
336小計	466	−6	17,164	−585	2.9	4.2	36.8
337-A	120	0	4,745	−179	3.6	5.1	39.5
337-B	85	−3	2,655	−177	2.4	4.5	31.2
337-C	86	1	3,142	−111	3.3	4.5	36.5
337-D	144	1	4,416	−95	3.4	4.0	30.7
337小計	435	−1	14,958	−562	3.2	4.5	34.4
合計	3,383	−3	112,519	−2,341	2.9	3.6	33.3

入退会者調査

［2008年9月〜10月］ライオン誌日本語版事務所集計

調査時期／2008年9月25日〜10月15日
調査対象／全国 3,367クラブ
回答数／1,673クラブ
回収率／49.7%
調査機関／ライオン誌日本語版事務所

Q1. 昨年度（2007-08年度）中に入会した会員の年齢層

1. 20歳代 ……0.6%
2. 30歳代 ……8.2%
3. 40歳代 ……19.4%
4. 50歳代 ……31.3%
5. 60歳代 ……28.0%
6. 70歳以上 ……12.5%

Q2. 昨年度（2007-08年度）中に退会した会員の年齢層

1. 20歳代 ……0.2%
2. 30歳代 ……4.2%
3. 40歳代 ……12.5%
4. 50歳代 ……28.3%
5. 60歳代 ……29.1%
6. 70歳以上 ……25.7%

Q3. 昨年度（2007-08年度）中に入会した会員の性別

1. 男性 ……84.3%
2. 女性 ……15.7%

Q4. 昨年度（2007-08年度）中に退会した会員の性別

1. 男性 ……91.7%
2. 女性 ……8.3%

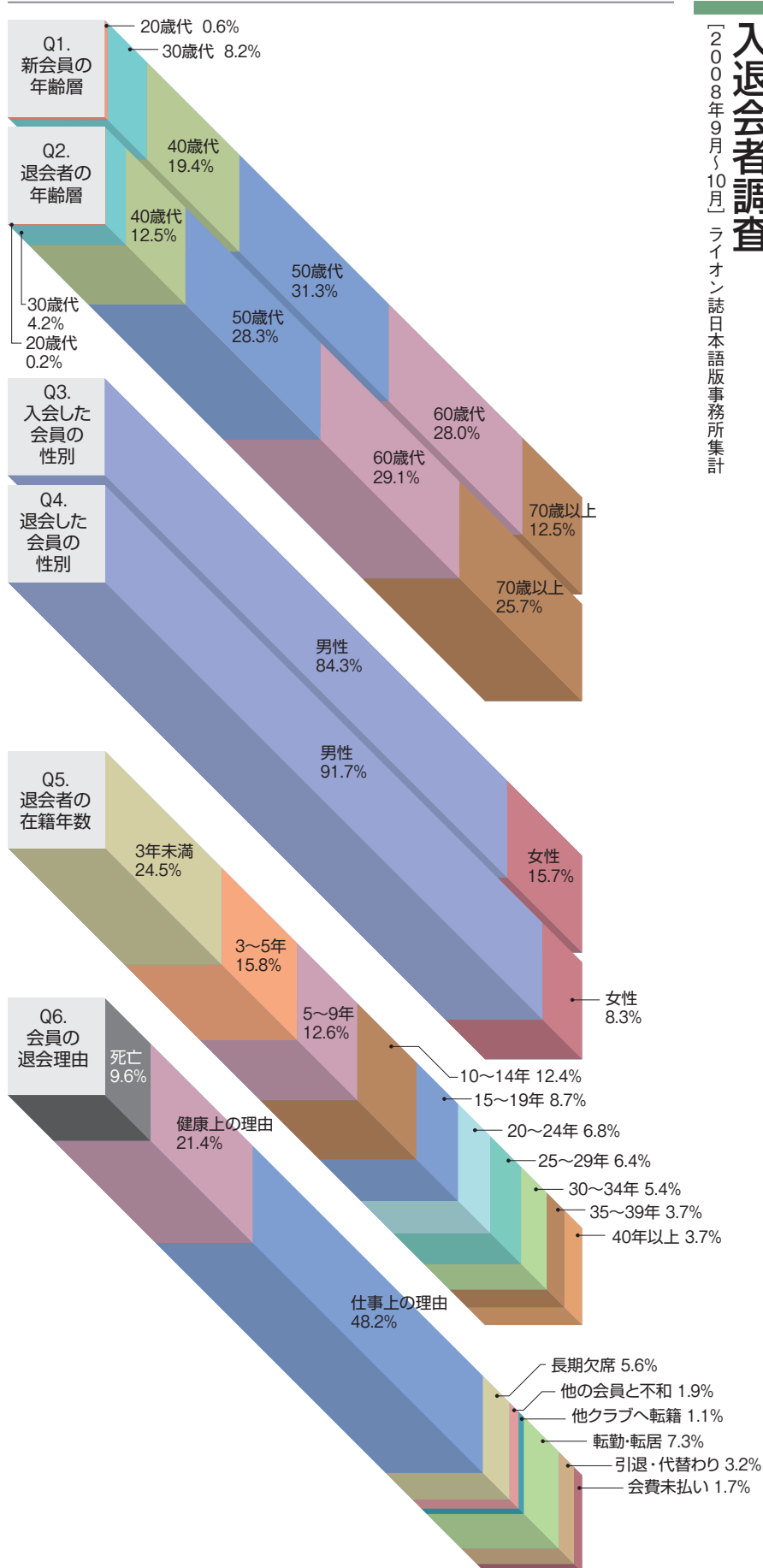
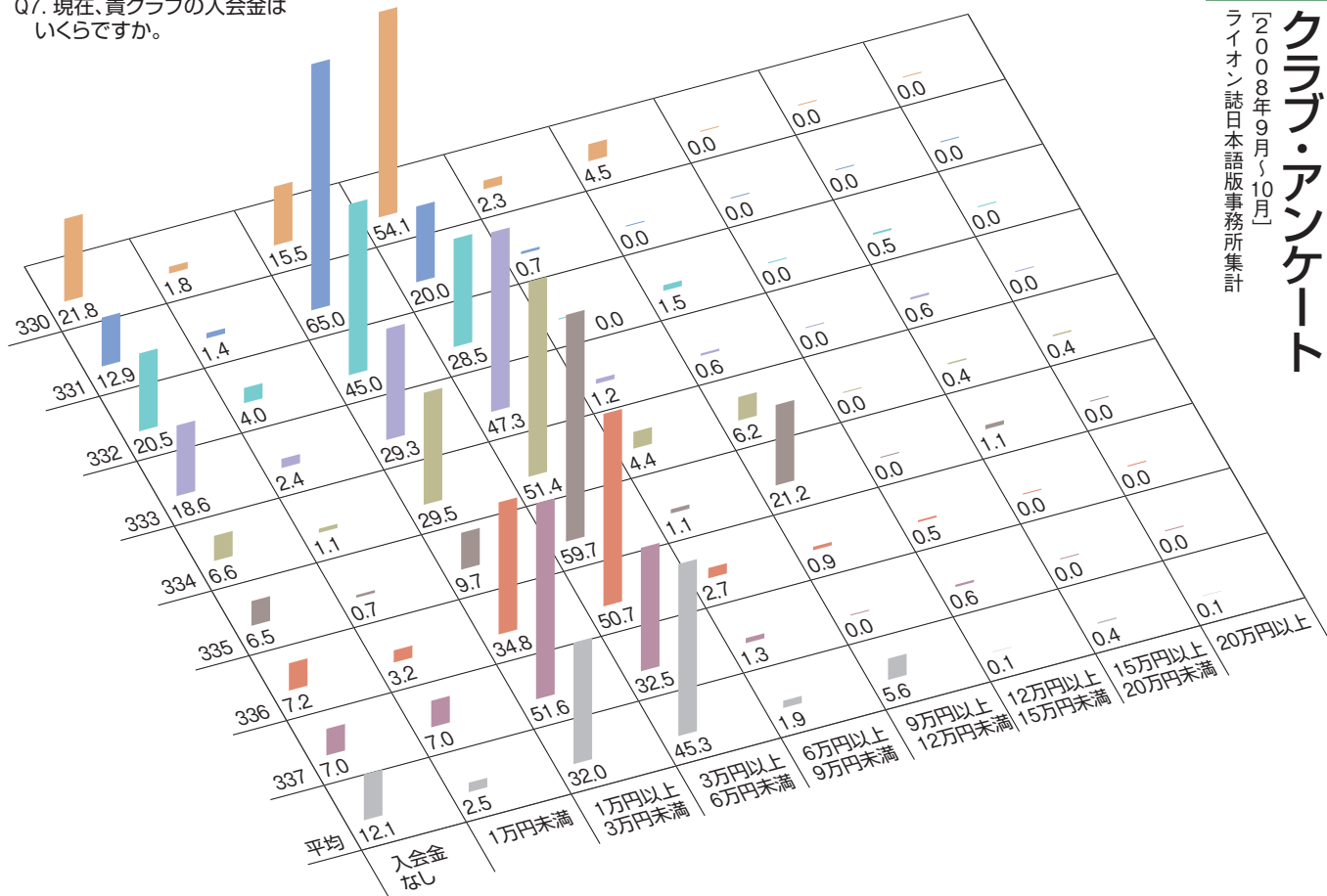
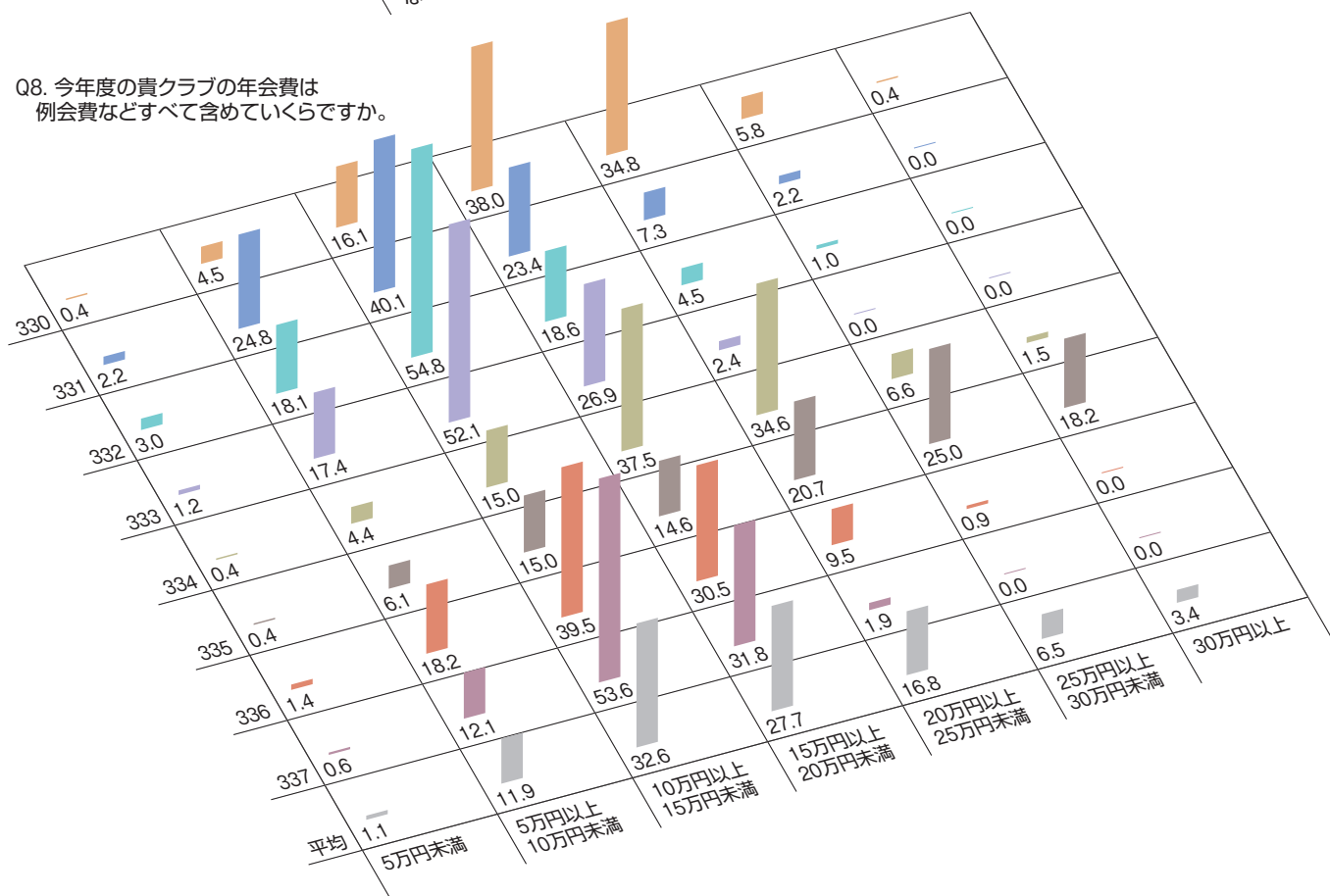
Q5. 昨年度（2007-08年度）中に退会した会員の在籍年数

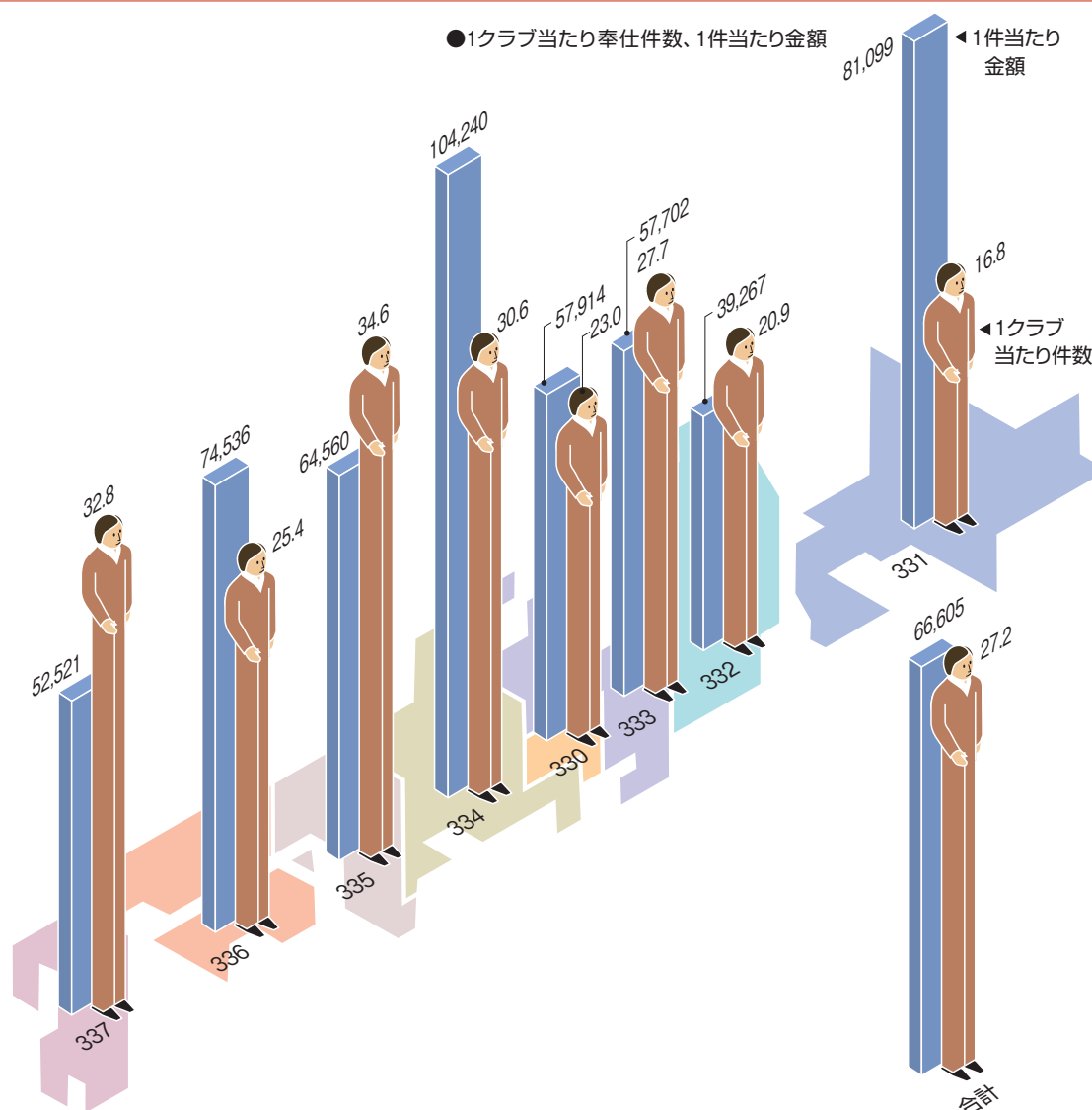
1. 3年未満……24.5%
2. 3〜5年 ……15.8%
3. 5〜9年 ……12.6%
4. 10〜14年 ……12.4%
5. 15〜19年……8.7%
6. 20〜24年……6.8%
7. 25〜29年……6.4%
8. 30〜34年……5.4%
9. 35〜39年……3.7%
10. 40年以上……3.7%

Q6. 昨年度（2007-08年度）中に退会した会員の退会理由

1. 死亡 ……9.6%
2. 健康上の理由 ……21.4%
3. 仕事上の理由 ……48.2%
4. 長期欠席 ……5.6%
5. 他の会員と不和 ……1.9%
6. 他クラブへ転籍 ……1.1%
7. 転勤・転居 ……7.3%
8. 引退・代替わり ……3.2%
9. 会費未払い ……1.7%

クラブ・アンケート

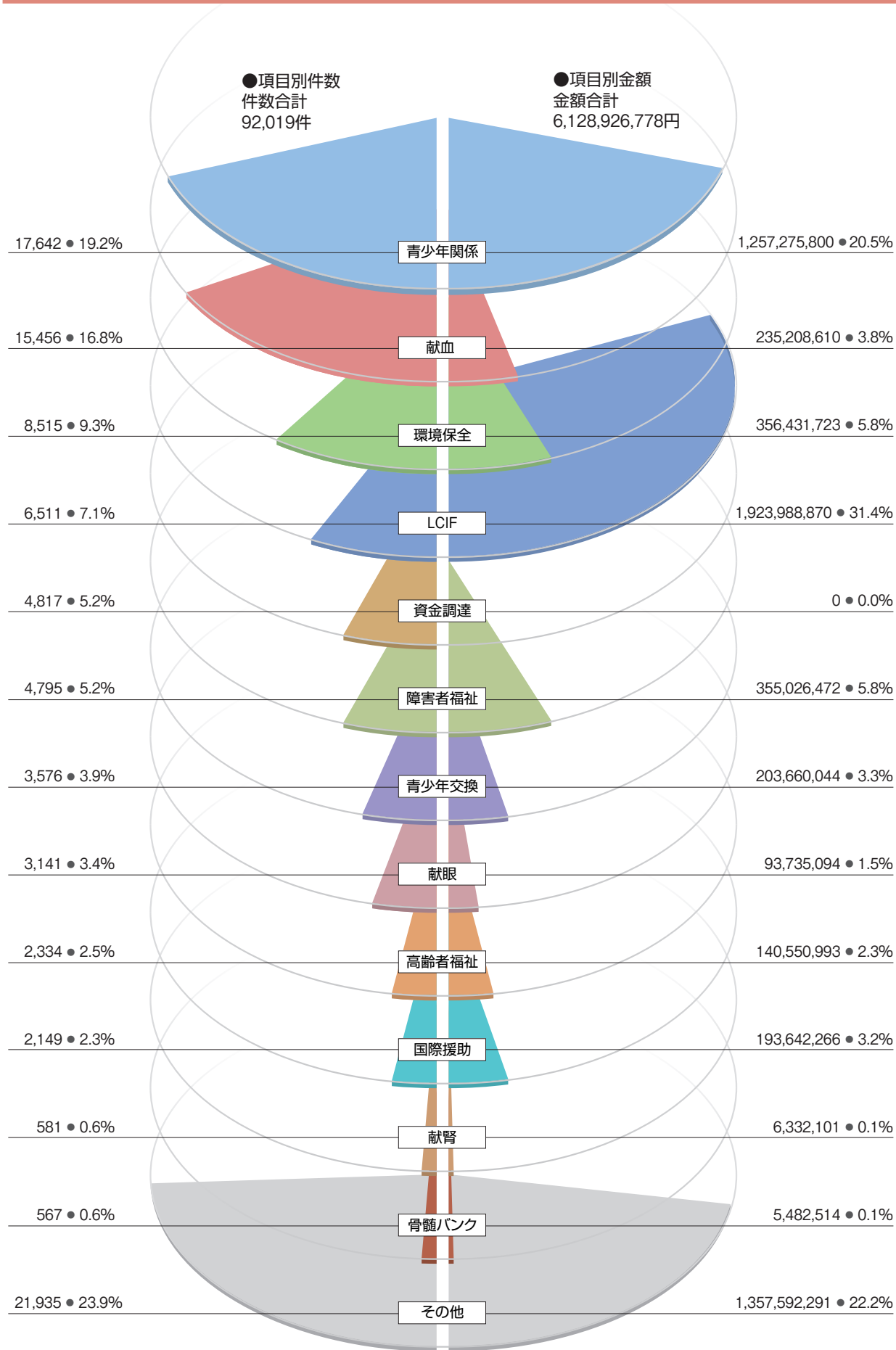
［2008年9月～10月］
ライオン誌日本語版事務所集計

アクティビティ地区別構成比

〔2007・08年度集計〕ライオン誌日本語版事務所集計

複合地区	準地区	件数	1クラブ当たり件数	金額	1件当たり金額
330	330-A	4,597	22.3	300,827,023	65,440
	330-B	4,786	24.9	239,795,574	50,104
	330-C	2,187	21.0	129,445,046	59,188
小計		11,570	23.0	670,067,643	57,914
331	331-A	1,424	18.5	129,672,249	91,062
	331-B	1,124	12.1	116,751,533	103,871
	331-C	1,323	21.7	67,510,557	51,028
小計		3,871	16.8	313,934,339	81,099
332	332-A	1,221	17.7	55,030,411	45,070
	332-B	1,165	21.2	61,880,419	53,116
	332-C	1,935	23.3	51,938,728	26,842
	332-D	1,756	22.8	68,136,516	38,802
	332-E	1,330	22.9	63,787,391	47,960
	332-F	820	15.8	22,275,299	27,165
小計		8,227	20.9	323,048,764	39,267
333	333-A	2,163	27.0	129,248,086	59,754
	333-B	1,060	18.6	63,090,889	59,520
	333-C	3,981	29.5	237,516,768	59,663
	333-D	1,631	29.7	80,865,708	49,580
	333-E	2,463	30.4	141,199,164	57,328
小計		11,298	27.7	651,920,615	57,702

複合地区	準地区	件数	1クラブ当たり件数	金額	1件当たり金額
334	334-A	4,431	37.2	643,158,708	145,150
	334-B	2,723	30.9	246,694,874	90,597
	334-C	2,033	24.2	167,636,137	82,458
	334-D	2,730	27.0	220,408,823	80,736
	334-E	1,698	32.0	141,332,488	83,235
小計		13,615	30.6	1,419,231,030	104,240
335	335-A	3,300	30.3	195,190,375	59,149
	335-B	6,802	33.3	491,381,722	72,241
	335-C	5,618	45.7	327,019,879	58,209
	335-D	1,631	24.7	106,595,011	65,356
小計		17,351	34.6	1,120,186,987	64,560
336	336-A	4,761	30.5	308,047,605	64,702
	336-B	2,045	20.7	179,395,405	87,724
	336-C	2,722	26.2	269,530,691	99,019
	336-D	2,301	21.5	124,715,935	54,201
小計		11,829	25.4	881,689,636	74,536
337	337-A	5,533	46.1	316,898,103	57,274
	337-B	2,484	29.2	95,486,205	38,441
	337-C	2,235	26.0	161,922,419	72,449
	337-D	4,006	27.8	174,541,037	43,570
小計		14,258	32.8	748,847,764	52,521
合計		92,019	27.2	6,128,926,778	66,605

主要アクティビティ構成比

［2007・08年度集計］ライオン誌日本語版事務所集計

ライオンズ雑学事典

ライオンズはじめて物語

名称と紋章

1917年10月8日、テキサス州ダラスで開催された第1回大会で、協会の名称や紋章、目的、綱領、会則などが採択された。が……。

「はじめて物語」として外せないのが、1917年10月8日、テキサス州ダラスで開催された第1回大会だ。協会の名称や紋章、目的、綱領、会則、そして役員に至るまで、すべて「はじめて」尽くしになるわけだが、それだけに多少の紆余曲折もあったようだ。

本誌1966年3月号に、第1回大会の様子を伝える1917年10月9日付『ダラス・モーニング・ニュース』紙の記事が載っていた。65年7月のロサンゼルス国際大会で、その切り抜きが配られたのだという。

見出しは「ライオンズの組織完成─実業家クラブ当市で第1回年次大会開催」「ライオンズ大会で役員選挙─新団体の名称はライオンズクラブ国際協会と決定」。記事は、前日行われた役員選挙でインディアナ州のW・P・ウッズ博士とダラスのL・H・ルイス氏が推薦されたが、ルイス氏が辞退され、ウッズ会長が満場一致で可決、ルイス氏は第1副会長に就任したと伝えている。更に協会の名称をライオンズではなくボーテックス（人々を巻き込む）にしたらどうかという提案が、セントルイス及びデトロイトの代議員から出されたが、25対7で否決された。

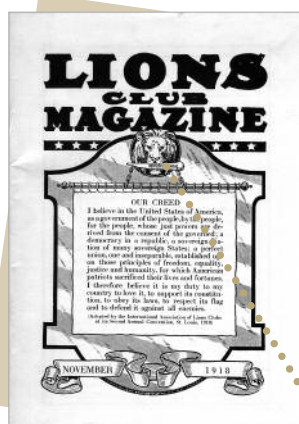
が、名称についてはその後も論議の的になっていた。決着をみたのは1919年の第3回大会においてであった。デンバー出身の弁護士ハルステッド・リッターが、昼食会で「ライオニズムの力」と題したスピーチを行った。

「ライオンズという名称は、我々が常に称賛してやまない資質である友愛、親善、個性、意志の強さ、そのすべてを備える百獣の王の名と同じであるばかりでなく、LIONSのつづりは、アメリカ市民として真の意義と基盤を持つことを、広く国民に宣言するためのものであります。すなわち、L＝Liberty（自由）I＝Intelligence（知性）O＝Our（我々の）N＝Nation's（国）S＝Safety（安全）です」

これにて一件落着。更にこの頭文字は後年、協会のスローガンとして採択され、ライオニズムとは切っても切れないものになった。

紋章も同様。1918年11月に創刊された『ライオン』誌の表紙には、第1回大会で決まった、棍棒をくわえたライオンの紋章が入っているが、その後もデザインの募集が続けられていた。200点を超す応募があったが、どれもインパクトに欠け、最終的には1920年、メルビン・ジョーンズの依頼でシカゴの商業美術家モーリス・ブリンクが作成したデザインが採用された。そのプレゼンテーションでジョーンズは新デザインをこう説明した。

「過去と未来の双方を見つめるライオンが描かれています。過去を誇りとし、未来を信じるライオン。奉仕の場を求めて、あらゆる方向に目を向けるライオンの姿です」

今年、国際協会はこの紋章を変更したが、ベースとなるデザインはこの時のままである。

最初の紋章は、正面を向いた1頭のライオンが、「International（インターナショナル）」と書かれた棍棒（棍棒は英語でClub）をくわえたダジャレのようなデザインだった

女性会員

第1回大会では女性会員が認められていた？　女性会員の第1号は、かのヘレン・ケラーだった？　女性会員にまつわる「はじめて物語」。

前の記事で引用した1917年10月9日付『ダラス・モーニング・ニュース』紙では、会員資格についても触れていた。会員を白人に限定すること、女性会員を認めることも、この大会で決まったと伝えていたらしい。

女性会員の件は更に詳しく書かれ、ヒューストンの代議員ライオンチャールズ・J・カークが、自分たちの街では有力な女性実業家がライオンズ活動に大きな貢献をしていることを強く訴えたという。既にその女性実業家がヒューストンのクラブに入っていたものか、また女性会員の入会について第1回大会では認めたが、その後、再び門戸を閉ざしたものかは定かではない。この辺りは追って、調べてみたいと思う。

ところで、国際協会が公式に女性会員第1号としているのは、実はかのヘレン・ケラーなのである。

ヘレン・ケラーは1925年、オハイオ州サンダスキーにある世界最大の遊園地シーダーポイントで開催された第7回国際大会で「ライオンズの皆さん、盲人のために暗闇と戦う十字軍の騎士になってくださいませんか」と訴え、それ以来、視覚障害者支援がライオンズのお家芸となり、今日の視力ファーストにもつながっているのはよく知られているところ。そして、この講演の後、大会は満場一致で女性としては初めての名誉会員の称号を彼女に贈ることを可決したのだ。

ライオン石川欣一

東京ライオンズクラブ初代会長で、日本最初の地区ガバナー、更には日本人初の国際理事を務めたライオン石川欣一ってどんな人？

ライオン石川は1895（明治28）年3月17日、東京に生まれた。父・石川千代松は動物学者で、ライオン石川が生まれた頃は東京帝国大学教授として教壇に立つ傍ら、当時不可能とされていた鮎苗放流を成功させ、更には淡水魚養殖事業を創案した。キリンの和名も石川千代松博士の命名だという。

そんな父の下で育ったライオン石川は、東京大学英文科を中退し、アメリカ・ニュージャージー州のプリンストン大学へ留学。1919年に同大を卒業し、翌年毎日新聞社に入社。21～23年まで、アメリカ、イギリス、ドイツの移動特派員として勤務した。

その後、32年には新渡戸稲造の秘書としてアメリカ、カナダに随行。新渡戸は天皇の意向を受け、満州事変における日本の立場を説明し戦争を回避するため全米各地で100回以上にわたって講演をした。が、それもむなしく翌33年に日本は国際連盟を脱退した。

ライオン石川は33年から35年まで毎日新聞ロンドン支局長を務め、帰国後は同紙の各部長を歴任。43年1月から終戦の日までは、毎日新聞から出向し、『マニラ新聞』の出版局長としてフィリピンのマニラにいた。そして日本の無条件降伏を経て45年9月6日、米軍に投降、収容所では通訳を務め、同年12月21日、浦賀港へ引き揚げて来た。この時の体験は著書『比島投降記―ある新聞記者の見た敗戦―』（中公文庫）に詳しく書かれている。

帰国後のライオン石川は46年に日本初のタブロイド版夕刊紙として創刊された『サン写真新聞』の社長に就任。3年

間社長を務めた後、50年11月に同社を退社、ライオンズクラブ結成前後はフィリピン友の会の常任理事を務めていた。随筆家、翻訳家として著書や訳書が多数あり、『アメリカ文学史』で日本芸術院賞を受賞している。また趣味も多彩で、日本パイプクラブ会長、登山のガイド協会会長なども務めていた。

更に、あまり知られていないエピソードとして映画出演がある。小津安二郎の『お茶漬の味』という作品で、ライオン石川は主人公（佐分利信）が勤める会社の社長役で出演。登場シーンは2カ所で、主人公に海外出張を命じるシーンなど、台詞もあり、小津作品に合った役者っぷりを披露している。

一昨年、祥伝社から『グレート・スモーカー　歴史を変えた愛煙家たち』という本が出版されたが、同書には小津安二郎とライオン石川が登場する。あるいは、この二人の関係は煙草つながりであったのかもしれない。

なお、『お茶漬の味』は1952年10月1日の公開なので、撮影はちょうど東京ライオンズクラブ結成の頃だと思われる。またさすが世界の小津作品だけあって、松竹からデジタルリマスター修復版としてDVDが出ており、当時のライオン石川の姿を目にすることが出来る。

この後、ライオン石川は日本最初の302地区ガバナーを務め、59年ニューヨーク国際大会で国際理事に就任。が、帰国後の8月、胃がんで急逝された。享年64。

『ライオン』誌日本語版

1958年8月1日、『ライオン』誌日本語版が創刊された。以来50年、日本ライオンズと共に歩んできた『ライオン』誌創刊までの道

『ライオン』誌日本語版は今年、創刊50周年を迎えた。1958年までの6年間、日本の会員たちは本部が発行する英語版を購読していた。

56年8月、当時の高橋貞太郎地区ガバナーがシカゴの国際本部を訪問し、ロイ・キートン事務総長と会談。日本語版発刊を要請するつもりだった。が、事務総長は日本ライオンズの発展をたたえた後、こう続けたという。「協会は日本の進展に呼応して、日本語版の『ライオン』誌を発刊すべく資料を整え、理事会に諮る準備を進めている」。

更に57年夏にも原勝巳ガバナーが本部を訪問、本部版の編集責任者だったW・トーサー氏と日本語版発行について話し合った。原ガバナーは、メルビン・ジョーンズとも直接会談したが、ジョーンズは「会員数3千人」を日本語版発行の条件にしたという。それもあってか、原ガバナーは「ライオン教の教祖」と称される程、精力的に全国各地を回り、会員増強とエクステンションに尽力。下半期に入ったところで3千人の目標をクリア。日本語版発刊時には4千人を超えていた。

そして遂に58年8月1日、待望の『ライオン』誌日本語版が、4500部をもって創刊された。その日はちょうど、ロイ・キートン事務総長が日本公式訪問のため羽田空港に到着した日であったという。

ライオンズ雑学事典

ライオンズ豆知識

ライオンズ・ローア

いつ誰が始めたのかは不明。スタイルいろいろで日本ではけっこう人気？　アメリカのライオンも吼えるのか？

両手を突き上げて「ウォー」と吼えるライオンズ・ローア。初めて目にした時は何事かと驚いた。皆さんもきっと同じだろう。最初は違和感を覚えたものの、そのうちに慣れ、今では病みつきという方もいらっしゃるのでは？例会や年次大会などで目にするうちにさまざまな吼え方があるのに気がつく。

足を肩幅に開き、両手のこぶしを突き上げながら「ウォー」。これが基本型。拳を前に突き出す型もある。式典などでよく見るのが「ローア三声」。正面、斜め上、真上と順に腕を突き上げて3回吼える。会の締めなどに行われることが多いから、万歳三唱に因んだものだろうか。年次大会では「構え」の掛け声が掛かる場合もあって、まるで武道の型のよう。

記録によると、1957年6月に開催された東京新橋、東京渋谷、東京日本橋の3クラブ合同チャーター・ナイトで、かのライオン石川欣一がライオンズ・ローアを3回行って会を締めくくったとある。これが三声スタイルの第1号だったかもしれない。

「ウィ・サーブ」のモットーと同じくライオンズ・ローアも万国共通、いずこのライオンも「ウォー」と吼えている……と思っている方もおられるだろうか？　答えは否。アジアだけにある慣習のようだ。発祥の地アメリカでは行わない。よって、国際大会で海外の会員に向かって高々とライオンズ・ローアを披露すれば、相手は面食らってしまうことだろう。

このローア、いつ誰が始めたのかは謎だが、東京ライオンズクラブの2年半後に結成された岡山ライオンズクラブのチャーター・ナイト・プログラムに「獅子吼、ジョージの音頭により一声」とあり、これが国内で記録に残っている最初のローアと考えられる。ジョージとはフィリピン・マニラ・ライオンズクラブのメンバーで、日本でのクラブ結成のため国際協会が派遣した特別代表だ。

ついさっき「アメリカでは行わない」と書いたが、国際大会の会場で、アメリカのライオンズの一団が気勢を上げているのを目撃したことがある。「ウォー！」ではなかったが、あれは確かに吼えていた。そこで海外にも類するものがあるかどうか調べてみた。そしてたどりついたのが、1・A地区（イリノイ州）のホームページ。地区番号からも分かるように、ライオンズクラブ発祥の地シカゴにある伝統ある地区だ。そこの「ライオンズクラブの伝統」のページに、"Lions Roar"として次のフレーズが記載されている。

Roarrrrrr Lions／Roarrrrrrr Lions／Roarrrrrrr Lions／Bite 'em, bite 'em, bite 'em.

さて、『ライオン』誌創刊号（58年7／8月合併号）に「ライオンズ・ロアの哲学的解釈」と題してライオン石川が原稿を寄せている。いわく「ライオンズ・ロアをやることによって、何人にもあり得べきモヤモヤが、心の中に入り込む余地が全くなくなることを強調したい」。

蔓延するモヤモヤを吹き飛ばすために、ローアの効能に期待したいところ。

ただし、会員ではない人たちに奇異な印象を与えないよう、ＴＰＯには十分に配慮したいものだ。

ライオン帽

当初はヤンキー・ハット、GI帽などと批判も浴びたあの帽子。50年以上も作り続けているメーカーが日本にあった。

時代の流れと共に、ライオン帽姿を目にすることは少なくなっているが、胸章と共に新会員に贈るのを習わしにしているクラブも多いはず。このライオン帽、どこで作られているかご存知だろうか？

国際協会が日本の会員に供給しているライオン帽には、サテン地とウール地の2種類がある。このうちサテン地はアメリカで作られていたが、近年需要が減ったため製造を中止。そこで、長年ウール地のライオン帽を手掛けてきた日本のメーカーが、一手に製造を担うことになった。繊維産業の盛んな岐阜県南部の笠松町に工場を置く鈴木茂製帽㈱は、55年前からライオン帽を作り続けている。先代社長で１９５８年に結成された岐阜南ライオンズクラブチャーター・メンバーの故ライオン鈴木茂が、良い素材で良い帽子をと選んだのが、主に礼服に用いられるドスキン織のウールだった。工場では今も変わらず、型抜きから縫製、仕上げの工程が丁寧な手仕事で行われている。その細やかな仕事ぶりは驚くばかりだ。

そもそも、ライオン帽は47年（日本初の東京ライオンズクラブ結成の５年前）に、パレードや会議、大会時のユニフォームとしてネクタイ、タスキと共に作られた。現在はポリエステルサテン製とウールの２種類があるが、最初の帽子はフェルト製だった。日本では、57年の第40回国際大会に参加した原勝巳ガバナーがこの帽子を持ち帰ったのをきっかけに全国に広まった。国内で最初に作ったのは金沢ライオンズクラブで、58年の第４回302地区（日本）年次大会で「金沢ライオンズクラブ製作のライオン帽を、正式のクラブ帽とする」という決議がなされている。中には、進駐軍兵士の帽子に似ていると抵抗を感じる会員もいたようだが、これによって日本でも正式に認められた。この後、年に１００、２００と新クラブが結成される成長期に入り、ライオン帽はメーカー数社で作られるようになる。鈴木茂製帽もその一つ。製造を始めたのは１９６３（昭和38）年だ。

「昭和40年頃には、全国のクラブや業者から年間に１万５千から２万個を受注していました。当時はいくつかのメーカーがそれぞれ作っていましたが、紋章を扱うのにこのままではいけないということで、当時の国際協会駐在員だった日本事務所の竹内修二所長が国際本部と交渉し、１９７３（昭和48）年に国内唯一のメーカーとして国際協会と契約しました」

現社長のライオン鈴木伸二はこう振り返る。以後、アメリカ製のサテン地と鈴木茂製帽のウール地の２種類が国際協会用品部を通じて販売されることになった。ちなみにライオン鈴木が先代の跡を継いで入会したのは昭和51年、32歳の時だったそう。

工場でライオン帽の製作を担当する

鈴木茂製帽製ライオン帽の数々。ライオン鈴木が手にしているのがドスキン製（品番A-9-JA）、手前右がサテン製（A-10-JA）。赤はテール・ツイスター帽で左手前のサテン製（A-12-JA）のみ頒布。右は来春発売予定の新作、涼しげなメッシュ素材製（A-11-JA）。取り扱いはいずれも国際協会日本事務所。

スタッフは3人。工場長はこの道50年のベテランだ。工程の中で最も手間が掛かり難しいのが、折り返し部分の縁に玉紐をつける作業。ここでは詳しくご紹介出来ないが、本誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）に写真付きで解説している。（「ライオン誌日本語版」→「取材こぼれ話」）

例会

例の時、例の場所で、例のごとく行われる例会。例会訪問で、うちと違う～と思ったことあるのでは？

●例会の時間

国内クラブの例会時間の設定は、昼例会、夜例会、月に昼夜1回ずつ、の3パターンに分かれる。昼は12時～12時半、夜は18時半から19時に開始するクラブが多いようだ。東京、神戸ホスト、大阪の各ライオンズクラブに代表されるように歴史の古いクラブは昼に行っている傾向が強い。かつては、例会は昼に開くものだった。ライオンズクラブの前身は昼食を共にするビジネス・サークルだったから、そのまま昼例会が習慣となったのだろう。

ライオン誌日本語版事務所に保管されている古いクラブ名簿を調べたところ、57年度版名簿にある74クラブすべてが昼例会だった。その翌年の名簿で125クラブの中に3クラブが夜例会とあった。国際協会が毎年発行する「ディレクトリー」は全世界のクラブの例会日時と会場を掲載している。これを見ると、現在では夜例会の方が主流のようだ。

日本には例がないが、アメリカには例会の時間帯を名前に付けているクラブがある。「イブニング（夕方）」のつくクラブは156、「ヌーン（昼）」のつくクラブが144、更にはオーステイン・モーニング・ライオンズクラブ（ミネソタ州）のように「モーニング（朝）」も9クラブあり、これらのクラブでは早朝6時半あるいは7時から例会を行っている。

●ゴングと槌

クラブ例会の開始と終了を告げるゴングの音。国際大会中に開かれる総会も「カーン（チーン？）」の音で始まり、終わる。このゴング、聞くところによると北海道では「カーン、カーン」と2回鳴らすのが通例らしい。1回だけでは物足りないからか……。更には、ゴングの他に鉄琴を使っているクラブもある。「キンコンカンコ～ン」と、懐かしの校内放送を彷彿させるアナウンスで着席を促すのだそう。

ゴングを鳴らすには、槌が欠かせない。実際、重要な意味合いを持つのはこちらの方だ。英語では「ガベル（gavel）」で、"gavel-to-gavel"という言い回しは会議の開会から閉会までを意味する。議長の権威を象徴するものだ。国際大会の閉会式で執り行われる国際会長就任式では、前会長から新会長へ指輪と槌が引き継がれる。このことからも、いかに重要なものかが分かるだろう。くれぐれも、トンカチの代わりになど使わぬように。

ライガー

プロレスラーのリング名ではない。恐らく北海道内だけで通用するご当地ライオンズ用語。

ライガーは実在する動物で、父がライオン、母がトラの雑種。自然に交配することはないから人工的な産物だ。顔立ちはライオンに似て、顔に斑、体に縞模様がある。が、ここで言うライガーはこれとは別。

北海道ではお馴染みのこれ、「新入会員歓迎ライガー」のように使われる。「ライオンが集まって、飲んでトラになるから『ライガー』」。北海道で最初に出来た札幌ライオンズクラブの会員は、結成式で聞いたこのダジャレ？をすっかり気に入ってしまったらしい。エクステンションが進むと共に道内のクラブに広まった。「結成記念ライガー」に「年次交歓ライガー」、はたまた「新年ライガー」「納涼ライガー」など。懇親会でも親睦会でもなく、ライガーという名前だけで、活気にあふれ、気さくなムードの楽しい会を連想してしまうのは私だけだろうか？

ライオンズ雑学事典

ライオンズ・ギネス

ライオンズ密度

面積当たりでライオンズの多い国は？　県は？　人口当たりでは？あなたの町も計算して比較してみては。

●ライオンズ密度の高い国＝モナコ公国（49・3人／平方キロ）

モナコの国面積は1・44平方キロ。バチカン市国に次いで世界で2番目に小さな国だ。人口は3万3千人。ここに2クラブ、71人のライオンズ会員を擁する。モナコはカジノやF1グランプリが開催されることでも有名で、中田英寿やクルム伊達公子など、同国に居を構える著名人も多い。

●ライオンズ密度の高い県＝大阪府（3・0人／平方キロ）

大阪府は香川県の次に小さい。3番目は東京都。面積当たりの割合となると、やはり大都市を抱えかつ狭い都府県が上位となる。ダントツに広い北海道が下位なのはもっともなのだが、人口密度が大阪の約70分の1であるのに比べると、ライオンズ密度は40分の1。大健闘とも言える。県別の会員数では北海道が最多。

●人口1万人に対するライオンズの割合が高い国＝サンピエール・ミクロン諸島（90・0人）

カナダのセント・ローレンス湾に浮かぶサンピエール・ミクロン諸島は、人口わずか6千人、面積240平方キロ。世界有数の豊かな漁場に恵まれている。この島々にライオンズクラブが2クラブ、会員54人。昨年度は年間で6人純増、13％アップした。

●人口1万人に対するライオンズの割合が高い県（表1）＝島根県（23・6人）

これは県別に見て突出した数字である。人口が少ない県が上位に上がる傾向はあり、島根県の人口73万人は下から2番目ではあるが、ライオンズの割合2位の高知県（1万人あたり16・2人／人口78万人）とも大きく開き、これ以降は零コンマ何人かずつの変化となることからも、23・6人が別格であることが分かる。全国平均は8・8人。島根の皆さん、一体どうしてなんでしょうね。

●人口1万人に対するライオンズの割

人口1万人に対するライオンズの割合が高い県（表1）

順位	都道府県	人口	会員数	1万人中
1	島根県	733,123	1,733	23.6
2	山形県	1,194,071	1,930	16.2
2	高知県	784,038	1,267	16.2
4	福井県	815,344	1,295	15.9
5	徳島県	805,951	1,208	15.0
5	香川県	1,019,333	1,526	15.0
7	愛媛県	1,471,510	2,178	14.8
8	富山県	1,106,340	1,605	14.5
9	岡山県	1,948,250	2,782	14.3
10	青森県	1,430,543	1,975	13.8
11	山梨県	871,481	1,193	13.7
11	長崎県	1,469,197	2,008	13.7
13	広島県	2,864,167	3,907	13.6
14	北海道	5,571,770	7,446	13.4
15	佐賀県	864,738	1,154	13.3
16	三重県	1,856,282	2,444	13.2
17	岩手県	1,366,652	1,727	12.6
17	鳥取県	602,411	758	12.6
19	新潟県	2,413,103	3,017	12.5
20	大分県	1,215,388	1,485	12.2
21	山口県	1,479,840	1,764	11.9
22	秋田県	1,130,823	1,336	11.8
23	石川県	1,167,151	1,367	11.7
24	鹿児島県	1,739,075	2,015	11.6
25	京都府	2,558,542	2,728	10.7
26	茨城県	2,982,000	3,058	10.3
27	群馬県	2,012,151	2,047	10.2
28	福島県	2,075,555	2,099	10.1
28	長野県	2,176,806	2,196	10.1
30	宮崎県	1,161,026	1,127	9.7
31	熊本県	1,844,644	1,754	9.5
32	福岡県	5,030,818	4,692	9.3
33	兵庫県	5,582,230	5,035	9.0
34	静岡県	3,775,400	3,368	8.9
35	和歌山県	1,045,973	916	8.8
36	愛知県	7,185,744	5,766	8.0
37	栃木県	2,006,701	1,429	7.1
38	岐阜県	2,095,484	1,457	7.0
39	滋賀県	1,377,886	922	6.7
39	宮城県	2,334,874	1,558	6.7
39	大阪府	8,670,302	5,769	6.7
42	千葉県	6,090,799	3,603	5.9
43	奈良県	1,419,626	724	5.1
44	神奈川県	8,798,289	4,012	4.6
45	沖縄県	1,391,215	622	4.5
46	東京都	12,462,196	5,148	4.1
47	埼玉県	7,067,336	2,774	3.9
	全国平均	127,066,178	111,924	8.8

＊人口：国連人口部統計に基づく総務省統計局発表(2004年)
＊会員数：ライオン誌日本語版事務所集計(2008年6月30日現在)

合が高い市町村＝北海道黒松内町（190・9人）

黒松内にはライオンズ会員が多いと聞き、調べてみたら確かに多かった。人口3300人の町に黒松内ライオンズクラブ会員が63人。同町の成人人口の割合は83％なので、会員の資格がある人の中では1万人に230人、実に43人に1人がライオンということになる。

クラブ部門

クラブ別のランキング。会員数、家族会員、及びアクティビティの数字はサバンナ・マンスリー報告に基づく。

●会員数トップ3（08年9月末現在）

1位＝群馬県・高崎167人、2位＝長崎県・諫早センチュリアン159人、3位＝福岡県・田川140人。

●家族会員数トップ3（08年9月末現在）

1位＝岐阜県・美濃加茂37人（全会員数78人）、2位＝岩手県・陸前高田24人（68人）、3位＝新潟県・巻（71人）、群馬県・高崎（167人）、長野白樺（101人）各20人。

●最も多く地区ガバナーを輩出したクラブ＝静岡県・浜松（9人）

ただし、1977・78年度に任期途中で交代があり、この年に2人をカウント。ガバナーを輩出した年度を数えるなら京都も8年度で同位となる。日本で最初のガバナーが誕生したのは53年。当初は暫定地区であったとはいえ、日本で最初の東京ライオンズクラブが結成されてからわずか1年と4カ月後のことである。

●日本最端にあるクラブ

最東端＝北海道・根室（北緯43度、東経145度）

日本で最東端の根室では、日本一早く日が昇る。元旦にはどこよりも早い初日の出を見るために、日本各地から1万人もの人々が訪れる。

最西端かつ最南端＝沖縄県・八重山（北緯24度、東経124度）

八重山ライオンズクラブが事務所を構える八重山諸島の石垣島は、沖縄県に属するものの那覇との距離は410キロ、東京・大阪間程も離れていて、むしろ台湾の方が近い。亜熱帯海洋性気候に属し、年間の平均気温は24度。

最北端＝北海道・稚内、稚内北斗（緯度45度、経度141度）

ロシアの樺太が見える街、稚内。1～3月のオホーツク海には、冬の強風に押されて流氷が流れつく。これに乗ってゴマフアザラシもやってくる。多い年で300頭。昨年は観察所もオープンした。

●献血量最多トップ3※

1位＝京都朱雀ライオンズクラブで1503万3900cc、2位＝京都洛陽1315万1800cc、3位＝栃木県・宇都宮中央899万8600cc（成分献血は500ccとして計算）。1、2位を飾った京都が属する335・C地区は献血活動が特に盛ん。トップ10のうち4クラブを同地区が占め、地区ごとの献血量を比較すると約9350万ccでトップ、2位の335・B地区約2540万ccにも大差を付けている。

●アイバンク登録者数トップ3※

1位＝諫早中央1107人、2位＝群馬県・吾妻459人、3位＝鹿児島黎明253人。1位の諫早中央は、07年度登録千人を目標に努力を重ねた成果。

●角膜提供者数トップ3※

1位＝静岡県・小山42人、2位＝同県・御殿場、同県・裾野、各19人。献眼事業が活発な静岡県の中でも、小山では町全体にそれが根付いている。ライオンズを通じての死亡報告、摘出、運搬等のシステムが確立していて、亡くなる方の4人に1人が献眼するのだ。

●腎バンク登録者数トップ3※

1位＝北海道・帯広451人、2位＝鹿児島黎明253人、3位＝熊本県・人吉167人。

●骨髄バンク登録者数トップ3※

1位＝熊本県・人吉167人、2位＝東京赤羽126人、3位＝京都府・福知山東104人。

※いずれも2007・08年度サバンナ報告より

会員部門

世界に、日本に、こんな記録を持つ会員がいる。スポンサー数のデータは国際協会提供。

●スポンサー数トップ3（現会員／08年9月末現在）

世界＝ライオンフランク・ゲルリンガー（ドイツ）1375人、2位＝ライオンヤープ・ステリング（オランダ）1065人、3位＝ライオンナヒード・アーメド（パキスタン）1021人。会員招請千人と聞いてもピンと来ないので月割りにしてみると、毎月2人ずつ獲得し続けると42年間、3人ずつなら28年間で達成出来る。少し現実味を帯びたかな？　また、3位のライオンアメードの国パキスタンは会員数7千人強。仮に彼が招請したうち700人が在籍しているなら、国内会員の10人に1人は彼がスポンサーということになる。

日本1位＝ライオン三原晴正（福岡県・苅田）115人、2位＝ライオン幾留勲（大分県・別府第一）96人、3位＝ライオン秦従道（宮城県・仙台コア）88人。

日本でスポンサー数1位のライオン三原は63年10月に行橋ライオンズクラブに入会した。現在の苅田ライオンズクラブでは会員54人中19人、約3人に1人がライオン三原の招請だ。

ちなみに世界で最初に300人スポンサーを達成したのは、日本の故ライオン貝島義之。74年、国際会長がその表彰のため来日している。ライオン貝島はエクステンションにも尽力、福岡市内に5クラブを結成し、それぞれで会長を務めた。

●例会連続出席（08年10月末現在）

ライオン錦戸光一郎（宮城県・仙台エコー）1215回。58年3月、仙台ライオンズクラブに入会以来皆出席、記録更新中。

●日本最高齢

ライオン嶋田シカ（長崎県・諫早センチュリアン）。1898（明治31）年7月7日生まれ、110歳。06年入会。賛助会員なので義務はないのだが現在も時々例会に出席され、食事も皆と同じものを召し上がっている。

●最高齢ランナー

ライオン中冨正義（佐賀県・鳥栖）。66年度地区ガバナー。1905（明治38）年10月23日生まれ、103歳。82年、77歳の時に初めてホノルルでフルマラソンを完走して以来、同大会に15回連続出場。91年、最高齢での10回連続完走を祝しレミュエル・マッカーラー賞を、96年にはランナーズ賞を受賞。

その他

91年前にアメリカで誕生し、国や性別の協会を超えて発展してきたライオンズクラブの記録は。

●国際大会最多開催地＝アメリカ・イリノイ州シカゴ10回

シカゴは1917年にライオンズクラブが産声を上げた町。昨年度、第90回の大会もシカゴであった。最初の大会が開催されたテキサス州ダラスは、シカゴに継いで多い5回。フロリダ州マイアミ、ニュージャージー州アトランティックシティ、ニューヨーク州ニューヨークも同列に並ぶ。国別ではアメリカ72回、カナダ5回、メキシコ、日本が各3回。これまでに世界12カ国45都市で開催されている。

●国際会長最多輩出国＝アメリカ72人

アメリカ72人、カナダ3人、スウェーデン、フランス、ブラジル、インド、各2人。アメリカの州別ではカリフォルニア州、テキサス州、各7人。

●女性会員数が多い国＝アメリカ（8万7940人、女性の割合23・3％）

総会員数が多いアメリカで女性の人数が多いのは当然のようだが、率としても世界平均19・7％を上回っている。次いでインド（2万2006人、13・8％）、韓国（1万3513人、16・2％）、ブラジル（1万1283人、30・0％）。以上が1万人以上の女性会員を擁する国。日本は8705人、7・7％。

●会員数5千人以上で女性会員の割合が高い国＝トルコ（45・2％）

次いでフィリピン（38・1％）、タイ（31・2％）。会員数を考慮しなければ、女性が過半数を締める国は14ある。会員が数十人という国が多いのだが、中ではギリシャ（51・9％＝女性1047人）が出色。

（編）これらを上回る記録がある場合はライオン誌までご一報を！

Executive Officers Message

執行役員メッセージ

前国際会長／
LCIF理事長
マヘンドラ・
アマラスリヤ

活動の焦点を維持する

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）はライオンズの四つの主要な分野である視力保護、障害者支援、健康促進、青少年育成に交付金を拠出しています。四大交付金は、これら四つの主要な事業に対して交付されます。

『ライオン』誌本部版10月号では、ハビタット・フォー・ヒューマニティーとの10年間にわたる提携プログラムが特集されています。LCIFは障害者向け施設の建設支援として交付金を拠出してきました。千件もの家庭の自立促進を支援出来たことは大きな喜びです。

弱視と糖尿病予防及び治療プログラムは、LCIF四大交付金の視力保護活動の一端です。交付金により、支援が行き届いていない人々に対するサービスの充実と、廉価な補助器具の提供などが図られてきました。また、LCIFでは、四大交付金の就学前視力検査プログラムの充実を図って弱視児童の早期発見と眼病の予防も行ってきました。

青少年育成分野で最も有名なものにライオンズクエストがあります。まず、ワークショップで教師の研修が行われます。教師は研修内容を地域の学校のニーズに合わせて適応させます。

LCIF四大交付金を受けて、ライオンズはサービスの行き届いていない人々に手を差し伸べて地域社会での新たなニーズに取り組むプログラムを作成することが出来ます。

LCIFはあなたの財団です。

国際第1副会長
エーバハルト・J・
ヴィルフス

クラブを新しいレベルに導く

狙いを高く定めなければ、大きな目標を達成することは出来ません。ある作家はこう言いました。

「偉大なことを成し遂げるためには夢を持つこと、計画するだけではなく、信じることが絶対必要である」

今こそクラブは大きな計画を立て、他人の役に立つだけではなく、会員の絆を深めることにおいても、かつてない程の成果を成し遂げる時なのです。

人は一定レベルの能力または成果に到達してしまうと、それだけで満足してしまいます。更に高く発展出来るにもかかわらず、そのことに気がつきません。私たちは成功という名のはしごを上り、非常に高い所までたどり着きますが、それ以上先には上ろうとしません。しかし、もし私たちが満足してしまったら、ライオンズはどうなってしまうでしょうか。私たちは常に新しい挑戦を模索し、そして高い目標を定めてきたからこそ、世界的な団体になりました。

ぜひ、あなたのクラブを評価し、更に何が出来るか検討してみてください。特に活発なクラブは、会員増強を得意としています。短期間でクラブの奉仕活動及び目的の新しいレベルを迎えようと努力しているクラブは、活性化することが出来るでしょう。良いクラブになることは、すばらしいことです。しかし、更にすばらしいライオンズクラブになることも可能なのです。

国際第2副会長
シドニー・L・
スクラッグス

奉仕活動に誇りを持ちましょう

ヘレン・ケラーの数多い賢明な言葉の一つに次のようなものがあります。

「私は、偉大で威厳ある仕事をしたいと願う。しかし、私が主にやるのは、細かな仕事をまるで偉大で威厳ある仕事のように行うことだ。世界は、英雄たちの力強い行動で動くのではなく、まじめに働く人々のごく小さな努力の積み重ねで動いているのだ」

これはライオンズのことを指しているわけではありませんが、ライオンズにも当てはまる言葉です。ライオンズは隣人の生活を高める活動や、地域を改善する奉仕といった細かな仕事を日々行っています。これらは、新聞の一面を飾らないかもしれませんが、私たちのさまざまな活動が目覚しい成果を生み出しているのも事実です。私たちは注目を集めるために活動をしているわけではなく、また華々しい活動をするわけでもありません。が、私たちの行動は掛け替えのないものです。

今年、ブランデル国際会長は、ライオンズが奉仕活動を通して奇跡をもたらすエブリデー・ヒーローにスポットを当てていきます。私たち自身が自分たちの活動に誇りを持ち、更なるすばらしい奉仕活動に貢献していくことを勧めます。私たちはすばらしい方法で、数々の細かな仕事を行うことが出来ます。それこそ、エブリデー・ヒーローがやるべきことなのです。これからも奇跡が起こるよう努力していきましょう。

■国際理事
杉本忠夫
（北海道・札幌ライラック）

ハワイ国際理事会リポート

露寒から師走へと季節の変化に加え、多忙を極める時期かと思います。

第2回国際理事会は10月29日～11月3日、ハワイ・マウイ島で開催されました。マウイでは海に山にそして岩や花、魚に至るまで神々が宿るという考えが古代からあるのだと、地元メンバーが話してくれました。今でもそうした神話や伝説が息づいているのを感じます。ただ、現地を訪れた時には残念ながら、100年に一度の津波にも例えられるグローバルな金融危機・同時不況の影響を受け、ハワイへの旅行者も半減していました。

このようなやや不安げな雲行きの下ではありますが、理事会は今回も大変精力的に開催されました。ここで話し合われた事項を、いくつか抜粋して挙げさせて頂きます。

- 第1、2副地区ガバナー選挙事項
- 次期協議会議長及びゾーン・チェアパーソン予定者に対する各セミナーの検討
- 地区ガバナー・エレクト（DGE）セミナー開催におけるコスト削減等
- 国際大会に関連する戦略的計画及びパレードの検討
- 地区ガバナー任期を2年とする試験的プログラムを設けることについて
- 国際理事会アポインティーは国際会長の所属クラブ以外からとすることを決定、人数の増加はしない
- 2014年大会の開催都市、ボストン、カナダ、フロリダ他候補地見学予定。大会部への入札期限の検討
- 国際協会100周年祭（2017年）に向けての計画、予算について
- 災害等によるLCIF緊急援助交付金の申請は新聞の写し等を添付。ファクスで受け付け可能
- CSFⅡ最終報告。3年間のキャンペーン終了となるバンコク国際大会で、大きな成果を収めたことが発表された。目標の2億ドルを超える2億20万ドルの献金があった
- 女性会員、学生会員の入会促進、終身会員の必要条件の緩和
- MERL委員会との協力でGMTの計画を達成する
- ライオンズクラブ公式ウェブサイトの新デザイン。名刺作成機能の検討
- 会長メダルを1280個に増加
- 3月13日の国連ライオンズ・デーについて

今回の理事会は一人の欠席者もなく開催され、会長始め第1、第2副会長と共に充実の会議となりました。各委員会では多くの議題の検討を重ねながら理事たちの人柄にも触れることが出来、仲間意識を深めました。私が所属する指導力育成委員会ではDGEセミナーを始め、3～4年先までのカリキュラム、予算等を検討。会員減少による予算の変更も余儀なくされました。リテンションと会員増強が協会の最重要課題であることをこうした際にも実感します。

理事会・委員会での討議は想像以上にハードであり、すべては協会の明るい将来とメンバーの資質向上を、ひたすら求めるものであります。

皆さん、世界一の奉仕団体であるライオンズクラブのメンバーであることに誇りを持ってウィ・サーブに邁進しましょう。

ライオンズ ニュースカセット

NEWS CASSETTE

地区ガバナーが集い日本ライオンズ全国知事会

10月21日、東京・日比谷の松本楼に地区ガバナーが集い「日本ライオンズ全国知事会」が開催された。今期、地区ガバナー・メンターの山田實紘元国際理事が、四半期を終えた時点での活動状況について報告を受けると共に、懸案の事項についてディスカッションしようと開催を呼び掛けたもの。メンターは地区ガバナー・エレクト・セミナーの指導を担当したグループ・リーダーが務め、ガバナーの相談役として支援や激励に当たっている。

会にはガバナー27人と後藤隆一、栢森新治両国際理事が出席。冒頭で両国際理事から国際協会の動向やグローバル・メンバーシップ・チーム（GMT）について説明がなされたのに続き、各地区ガバナーから現況が報告された。各地区に共通する最大の課題は会員増強。各ガバナーからは少人数クラブの増加や会員の高齢化といった現状の問題点と共に、特別委員会の設置や新クラブ結成の動き、市民向けPRキャンペーンの実施など、増強に向けた取り組みが報告された。また、既に家族会員の増加やライオネスクラブのクラブ支部移行で成果を上げている地区からはその実績が発表された。

更に、バンコク国際大会の代議員投票によって設置が決定した第2副地区ガバナーに関する質問も相次いだ。これについて、後藤理事からその内容や設置に当たっての規則の説明があり、改正された国際会則及び付則に反することのないよう注意を求めた他、各地区における対応について情報交換がなされた。

2009年国際大会情報

第92回国際大会は2009年7月6日から10日まで、アメリカ・ミネソタ州ミネアポリスで開催される。ミネアポリスの「ミネ」はダコタ族の言葉で「水」。「湖の街」と称される通り、市域内には美しい自然に彩られた20もの湖がある。この地での大会開催は1993年に続いて2回目。

大会の主な日程、登録料は下記の通り。「ヒーロー賞晩餐会」では特に顕著な活躍をした会員、クラブ、地区の表彰が行われる。インターナショナル・ショーに出演するのは、今も世界中で愛され続けるザ・ビーチ・ボーイズ。会場を「グッド・バイブレーション」で満たすステージの無料チケットは大会登録に含まれる。

第92回ライオンズクラブ国際大会
アメリカ・ミネソタ州ミネアポリス
2009年7月6日～10日

■主要日程 ※変更になる場合があります

【7月7日（火）】

10:00～	インターナショナル・パレード
15:30～17:00	各種セミナー
18:30～20:00	インターナショナル・ショー

【7月8日（水）】

9:30～12:30	開会式（第１回総会）
13:00～15:00	MJF昼食会
13:30～17:00	各種セミナー
16:30～18:00	候補者選挙運動会議

【7月9日（木）】

9:00～11:30	第２回総会
13:00～17:00	各種セミナー
18:30～22:30	ヒーロー賞晩餐会

【7月10日（金）】

7:00～10:00	投票
9:30～13:00	閉会式（第３回総会）

■大会登録情報

【登録料】

早期登録（～2008年12月31日）	100ドル
普通登録（09年1月1日～5月1日）	130ドル
早期登録（09年5月2日～現地）	150ドル

＊協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）の「国際大会」のページで、オンライン大会登録を受け付け中。郵送・FAX送信用の日本語版大会登録用紙もダウンロード出来る。

＊大会参加に関する情報は、各地区・複合地区の国際大会委員会にお問い合わせを。

2010年以降の国際大会開催予定

2010年：オーストラリア・シドニー／6月28日～7月2日

11年：アメリカ・ワシントン州シアトル／7月4日～8日

12年：韓国・釜山／6月22日～26日

13年：ドイツ・ハンブルグ／7月5日～9日

LCIFの人道的活動を促進する新たな開発計画

3月に開催された国際理事会で、LCIFの人道的活動を更に促進するためのLCIF開発計画が承認された。この計画は視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）の経験を生かそうと立案されたもの。今年度から4年間の長期計画だが、実質的な活動は次年度からのスタートとなる。新たに、各会則地域に一人の開発諮問委員、国際会長、LCIF理事長、第1、第2副会長から成る開発諮問委員会（DAC）

を設置。複合地区にはLCIF理事長の任命を受けた4年任期の複合地区コーディネーター、地区には地区ガバナー任命の地区コーディネーターが置かれて、LCIFの活動と資金獲得の促進に当たる。これにより、従来の複合地区、地区のLCIF委員長の役職は来年度以降は廃止される。日本ではナショナル・コーディネーターに秦三郎元地区ガバナー、LCIF複合地区コーディネーターに山浦晟暉元協議会議長（330）、桶谷賢知元協議会議長（331）、杉山正夫元協議会議長（332）、鈴木正二元協議会議長（333）、鈴木誓男元地区ガバナー（334）、寺田茂治元地区ガバナー（335）、加計邦夫元協議会議長（336）、林栄一元地区ガバナー（337）がそれぞれ任命される予定。

10月15日に福岡で開催されたLCIF開発計画のオリエンテーションには、東洋・東南アジア地域の開発諮問委員を務めるテーサップ・リー元国際会長、日本のナショナル・コーディネーターと複合地区コーディネーターの就任予定者、LCIFのトラバス・カーリー開発部部長、田辺憲雄開発課課長が出席。計画の説明と共に、日本の組織や現状に合った活動とするための意見交換が行われた。計画では今年度を複合地区コーディネーター、次期地区コーディネーター就任予定者の準備と教育の年とし、次年度から本格的に始動する。

アクティビティとPRに活躍するライオン像

335・B地区（大阪・和歌山）内の会員の協力で大阪市天王寺区の天王寺動物園にライオン像が完成し、9月27日に平松邦夫市長臨席の下、除幕式が開催された。この像は募金箱の役割を果たし、ライオンの口からコインを入れると「ウォー」とほえて「おおきに、ありがとう」の音声が流れるようになっている。集まった募金は、予算難で厳しい運営を続ける同動物園の支援に使われる。

ライオン像の設置は2007・08年度地区長期計画・リサーチ特別委員会（児玉隆委員長）が中心となってライオンズのPRを兼ねたアクティビティを行いたいと検討し、地区内メンバーに呼び掛けて実現したもの。会員340人余りから寄せられた1千35万円の資金で、黒御影石の台座に乗ったブロンズのライオン像と時計台が設置された。時計台にはライオンズクラブの活動内容を紹介する写真版が取り付けられている。

東京・銀座で臓器移植推進パレード

10月5日、東京・銀座で臓器移植患者団体連絡会が主催する臓器移植推進パレードが行われ、330・A地区（東京）から石井征二地区ガバナー始め会員40人が参加した。パレードは銀座1丁目から外堀通りを進み、数寄屋橋交差点を経て日比谷公園までのコースで行われ、青山学院大学のバトントワラー、ブラスバンドを先導に、臓器移植を待つ患者とその家族ら約100人、ライオンズが続き、沿道の人たちに移植医療への理解を呼び掛けた。このパレードは1997年に臓器移植法が施行されて以来、毎年10月の第1日曜日に開催されており、同地区は毎回協力、参加している。

国際協会公認エコバッグ登場

国際協会の公式クラブ用品を取り扱うライオンズクラブ国際協会日本事務所が、公認指定業者と共同開発した国際協会公認エコバッグが発売される。

資源の無駄を防ぎゴミ減量にもなるエコバックの利用は、最も身近な環境保護運動。さまざまな環境保護アクティビティに取り組むライオンズ会員向けにオリジナル・エコバッグを作ろうと、同事務所が発案し実現した。環境に配慮した素材を用い、携帯にも便利なデザイン。商品の詳細は以下の通り。

素材：横糸にオーガニックコットン100％使用

サイズ：W45×H36・5×マチ16センチ（折り畳みサイズ24×10センチ・留めベルト付き）

製作：㈱グローリー・シバタ

頒布価格：1980円（税込）

▼注文・問い合わせ先：㈱グローリー・シバタ（担当・井畑／TEL：06・6539・0441）

内側にはポケットがあり、財布や携帯電話などを入れるのにも便利

会議録

第2回ライオン誌日本語版委員会（10月3日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：後藤隆一、杉本忠夫両国際理事、渡邊豊隆、瀧澤嘉門、坂本和彦、坂井正、小岱義正、大島康男、山根健、塩倉安伸各委員、荘英隆、小柴登司両ITアドバイザー）

①10月号（11万3800部発行）出来②11月号記事内容確認③12月号以降台割（案）と主要記事予定④本部版への記事配信⑤ウェブサイト関連⑥ライオン誌日本語版事務所の運営⑦その他

第4回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（10月7日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：大熊泰雄、阿部幸一、福永敬、矢口武克、八嶌隆、小田邦雄、百田勝彦各議長、松原信一議長代理、後藤隆一、栢森新治、杉本忠夫各国際理事）

①前回議事要録の確認と議事録署名人による署名②議案確認③アルバート・F・ブランデル国際会長公式訪問（西）の日程④LCIFセミナー日程（案）⑤（議長連絡会議）諮問委員会設置⑥国際第2副会長候補者⑦日本ライオンズ連絡事務所移転⑧確認事項⑨各連絡会議・委員会報告⑩その他

第1回複合地区会則委員長連絡会議（10月16日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：長島進、小野善男、高橋幸喜、加藤弘明、曽我一義、小林登、濱田富雄、三野原和光各委員長、後藤隆一国際理事、小田邦雄議長）

①世話人、副世話人の互選②2007・08年度からの申し送り事項③08年国際会則および付則改正の確認④08年バンコク国際理事会決議事項の確認⑤第2副地区ガバナー⑥複合地区会則の改正案作成⑦ライオンズ必携、ライオンズクラブ役員必携の製作⑧複合地区連絡会議規定と会議目的、運用、表決

新結成／合併クラブ

愛知エメラルド（高須貴子会長）▼9月22日結成▼スポンサー／知立

訃報

■協議会議長

ライオン福永敬（群馬県・境）

10月24日死去、76歳。06年度333・D地区ガバナー、今年度333複合地区協議会議長。

■元国際役員

ライオン鈴木光男（愛知県・豊橋南）

10月9日死去、93歳。77年度334・A地区ガバナー、334複合地区協議会議長。

ライオン久米一郎（香川県・高松）

10月20日死去、85歳。98年度336・A地区ガバナー。

■献眼者

ライオン上田昌孝（北海道・滝川グリーン）／ライオン白畑稔（北海道・函館）／ライオン増田巌（愛媛県・新居浜）／ライオン赤利勝志（広島県・三原浮城）

＊誌面の都合により「ライオンズ検定」は休載致します

334～337複合地区(西日本)担当
GMTリーダー

高田　順一

今年度から3年間にわたって継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム(GMT)」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、それぞれ隔月で、チームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。

7月22～24日、イリノイ州オークブルックの国際協会本部近くにある、マクドナルド・ハンバーガー大学の施設を利用してGMT研修会が開催されました。その冒頭、アル・ブランデル国際会長は力を込めて次のように語られました。

「今まで国際会長が代わるたびに提示してきた単年度の会員増強はうまく機能しなかったと思っている。CSFⅡなどの成功したプログラムを分析し、その障害を乗り越える知恵を学んだ。GMTは第1副会長、第2副会長と協議し最低3年間は継続させることにした。トップダウンとボトムアップの双方向の組織であり、必要なすべての要素を込めた。

今日をライオンズクラブの歴史において記念すべき日としたい。国際協会は世界ナンバー1のNGOとして維持されるべきである。奉仕を拡大しよう。そのための架け橋を築いて目標に向かって進もう」

これまで国際会長が提唱した会員増強プログラムでは、会員増強の目標数値が提示され、その目標に向かってクラブが努力することが期待されました。今回のGMTでも期間を3年とすることや、委員長、副委員長、GMTリーダーの人事、そして組織は国際会長が決定しました。これは今まで同様トップダウンです。しかし、これを運用する方法はまさにボトムアップです。ここが今までの会長プログラムとの違いです。

いちばん基本にあるものは、クラブの方針であり、計画です。これは会員増強に限ったことではありません。どのようなアクティビティを行うのか、どのようなクラブ運営を行うのか、誰が会員の研修計画の責任を持つのか。明確な計画を持ち、実行し、分析し、それを次の計画に生かしていく。常にPLAN、DO、CHECKのサイクルを回していく手法が有効です。

会員増強への取り組みはクラブの自主的な活動であり、自分たちが立てた計画を、自分の責任で実行することになります。その計画を集積し、地区ガバナーの指導のもとで協議して作り上げられたものが地区MERLチームの目標となり、複合地区MERLチームの目標となります。

クラブ会長、クラブMERL委員会の理念、熱意、情熱がゾーン、地区、複合地区、国際協会につながっていくボトムアップです。このやり方を3カ月ごとに検証し、3年間継続していくことで、ライオンズクラブが変わると確信致します。

私たちGMTリーダーは複合地区GMT連絡員の皆さんと力を合わせ、目標達成の協力体制を作って参ります。その運営方法については次回のGMT通信でご説明致します。

たかた　じゅんいち
(富山昭和ライオンズクラブ)
2003年度334-D地区ガバナー。06年度334複合地区議長。

ハビタットとの共同事業でライオンズが築く新しい家と生活

LCIFファイル

ジェイコブ君は、自分のために新築される家が完成する日を心待ちにしていた。引き渡し当日は午前中から野球をしていて、相手チームの選手さえ祝福するほどの大活躍だった。新しい家は体が不自由な彼が生活しやすい設計で、ボール遊びが出来る庭も付いている。

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）と特定非営利活動法人ハビタット・フォー・ヒューマニティーは長年、共同で多くの住宅建設に従事してきた。アイダホ州に住むジェイコブ君もその住宅で暮らしている。39・W地区のライオンズは地元のハビタット支部やボランティアと協力し、何カ月もの間、その建設の準備と計画を進めてきた。

ジェイコブ君の身体障害者用住宅は、2000年から始まったこの共同事業の記念すべき1千戸目の物件として完成し、6月6日に引き渡しが行われた。「今までにない最高の経験でした」と話すのは、ダレル・ハットフィールド元39・W地区ガバナー。「すばらしいプロジェクトでした。前向きで心温まる支援や資金を提供してくれたツインフォールズのライオンズとLCIFに感謝しています」。

LCIF
LIONS CLUBS INTERNATIONAL FOUNDATION

ボーン・ロウチ一家とダレル・ハットフィールド元地区ガバナー、ハビタット・フォー・ヒューマニティーのリンダ・フレイング部長、ロウチ家を担当した建設業者

LCIFは、身体や精神に障害のある人々に住居を提供するため、ハビタット・フォー・ヒューマニティーに1200万ドルの支出を約束した。このLCIFの基金とライオンズの協力のおかげで、アメリカ、韓国、ニュージーランド、フィリピン、ザンビア、コートジボワール、スリランカ、ルーマニア、カナダ、ベリーズ、インド、ハンガリー、オーストラリアなど世界各国で、新たな生活を始められる家族がいる。

「ライオンズは長い間、地域社会から世界各国に至る貧困層のニーズに応えてきました。この共同事業を通じて、これまでに千を超える家族に、より良い生活環境を提供することが出来たのです」

とは、マヘンドラ・アマラスリヤ理事長の談。

完成した家やそこに住む家族は、ライオンズが地域社会に奉仕してきた象徴となる。障害者援助は、LCIFの四大交付金プログラムの一つである。LCIFの交付金と世界中のライオンズクラブの奉仕により、ジェイコブ君のような家族に明るい未来を与え続けることが出来るのだ。

SightFirst Update

視力を守るために承認された交付金

８月に開催された視力ファースト諮問委員会で19件、総額４７５万２２９３ドルの視力ファースト交付金が承認された。このうちインド、パキスタン、ネパール、スリランカ、マダガスカル、コスタリカ及びケニアの７カ国に交付された11件は、各国における白内障検査及び手術キャンペーンのためのもので、対象者は12万５千人に及ぶ。

白内障にかかると水晶体が濁り、物がかすんだりぼやけて見えたりするようになる。手術をせず放置しておけば最終的には失明に至り、発展途上国においては失明原因の第1位となっている。

ライオンズは視力ファーストを通して、発展途上国で白内障手術を実施し、これまでに７３０万人の視力を回復させた。

白内障は途上国ばかりでなく、先進国においても主要な失明原因の一つになっている。アメリカ人の半数以上は80歳までに白内障を患うか、白内障手術の経験者になっていると言われている。

インドでは、ライオンズは眼科医療が提供されていない地域で巡回診療を実施し、手術が必要な患者を２０８のライオンズ眼科病院もしくはライオンズ系列の病院に送っている。これらの施設の多くは、眼科医療従事者のトレーニングや設備の拡充のため、視力ファースト交付金を活用している。また、地元のライオンズは手術費用の半額を負担し、ＬＣＩＦ交付金を更に有効利用し、より多くの患者が手術を受けられるよう努めている。

白内障手術が必要か検査を受けるインドの患者

2008年8月の視力ファースト諮問委員会で承認された交付金

国	事業	交付金
インド	ジャグラム・ライオンズ眼科病院の拡張	102,336
インド	ガウハチ・ライオンズ眼科病院の拡張	64,177
インド	M・ラム・レディ・ライオンズ眼科病院の器材交換とシャムシャバード・サテライト・センターの拡張	83,966
インド	B.Y.L.ナイル慈善病院眼科の拡張	176,597
ネパール	ビラントナガールのラムラル・ゴルチャ眼科病院における車両購入	27,187
インド	白内障検査及び手術キャンペーン	132,375
インド	白内障検査及び手術キャンペーン	714,285
インド	白内障検査及び手術キャンペーン	44,125
インド	白内障検査及び手術キャンペーン	714,285
パキスタン	白内障検査及び手術キャンペーン	59,840
ネパール	白内障検査及び手術キャンペーン	324,500
ネパール	白内障検査及び手術キャンペーン	324,500
スリランカ	白内障検査及び手術キャンペーン	180,000
マダガスカル	白内障検査及び手術キャンペーン	400,000
コスタリカ	白内障検査及び手術キャンペーン	54,000
アルゼンチン	ベラサテギのサン・カミロ眼科センターの拡張	137,180
ケニア	白内障検査及び手術キャンペーン	290,000
—	2008年世界視力デーの活動支援	18,530

335複合地区の聴覚障害者支援

「イアーバンク」から「デフピープル」へ

1978年6月24日、東京・千代田区の日本武道館で開催された第61回国際大会の閉会式で、ラルフ・A・ライナム新国際会長は聴覚障害者に対する支援強化の方針を打ち出した。特に強く訴えたのが、聴力回復に寄与するイアーバンクの設立だった。日本にもイアーバンクを設立出来ないものか……。ライナム会長の要請を受けた当時の八木米次335-A地区ガバナーが、その実現に向けて動き出した。

難聴は、音を伝達する中耳を移植することによって治療可能な場合がある。移植に必要な鼓膜や耳小骨の提供を受けて保存するイアーバンクは、アメリカで大きな成果を上げていた。八木米次ガバナーの働き掛けで、まず兵庫県と兵庫医科大学の協力が得られることになった。同地区は翌年5月に開催された年次大会で、設立資金として3年間で3千万円の拠出を決議。実情視察のためアメリカへ医師を派遣するなど準備が進んだ。また、県耳鼻咽喉科医会に調査を依頼した結果、手術対象者は約3千人に上ることが明らかになった。同じ兵庫県の335-D地区の資金協力もあって、80年11月に日本初の「財団法人兵庫イアーバンク」が発足。翌年6月には最初の移植手術を成功させている。その後、335-B、C地区も参加し、2000年には「財団法人愛のこだまイアーバンク」と改名して、335複合地区が一体となって順調な活動を続けていった。

しかし04年、状況が急転する。カナダで移植による狂牛病発症の疑いが報告されたことを受けて、厚生労働省からイアーバンクへ、「硬膜を含んだ中耳摘出は望ましくない」との通達が出された。理事会は財団の存続について協議を重ねた末、「事故が起きてからでは遅過ぎる」と解散を決定。新たに「特定非営利活動法人デフピープル」を設立し、残余財産を聴覚障害者社会参加の支援を目的に活用することを決めた。

NPO法人デフピープルは04年11月に設立。その翌年から335複合地区内のクラブによる聴覚障害者の社会参加を支援するアクティビティに助成金の拠出を始めた。

助成金は各地区に総額500万円以内、1クラブへの上限を100万円とし、総事業費の30%以上をクラブが準備することが条件となる。支援事業は地区ガバナー経験者から成る申請事業審査会が決定する。昨年は36クラブが助成を受けた。

これまでの主な事業には、コンサート、映画、スポーツ大会など聴覚障害者の参加が困難な行事への招待や、施設や学校に対する字幕チューナー付きテレビ、ノートパソコン、訓練教材などの機器の寄贈、手話通訳や要約筆記のボランティア養成、聴導犬の育成支援などがある。国内の他地区に比べて、335複合地区の聴覚障害者支援は群を抜いて活発だ。その背景には、イアーバンクからデフピープルへ、長年にわたり築かれてきた聴覚障害への深い理解がある。

兵庫県・神戸北野ライオンズクラブ（335-A地区）
←第16回朝倉まみ手話シャンソンコンサート
メンバーと観客が共に手話で歌う場面では、会場が一体感に包まれた

大阪府・京阪さつき、寝屋川、寝屋川中央ライオンズクラブ（335-B地区）
→講演と手話落語の会
来場者から手話への関心を実感し、観客のはじける笑いに支援事業の意義を再確認した

聴覚障害者の社会参加に支援を

NPO法人デフピープル理事長
岡野安雅（兵庫県・神戸中央ライオンズクラブ）

兵庫イアーバンクの設立以来、ライオンズクラブは今日まで聴覚障害者の社会参加に力を尽くして参りました。

私たちは、たとえ耳をふさいでも自分の声が聞こえてしまい、聴覚障害を疑似体験することは出来ません。三重苦のヘレン・ケラーは、もし失明と聾唖のどちらかを選べと言われたならば、失明を選ぶと言っています。問題は言葉でのコミュニケーションが出来ないことです。優しい言葉や会話は心を育てます。手話はそれをカバーしてくれますが、健常者と会話することは出来ません。中途失聴者は口唇の動きを読む読話をしますが、講演会などでは要約筆記を見なければ一言も理解出来ません。

デフピープルは24年間にわたるイアーバンク運営で受け継がれたライオンズ精神を継承し、聴覚障害者の方々が豊かな社会生活を営めるよう支援しております。一般に理解されにくい聴覚障害を持つ人々への支援が他地区においても広がり、豊かに結実することを願ってやみません。

京都賀茂ライオンズクラブ（335-C地区）
←第10回手話劇コンクール京都大会
参加7団体、来場者1,000人を超える大きなイベント。総経費400万円中、デフピープルが100万円を助成し、残りはクラブ事業費と広告で賄う

兵庫県・豊岡亀城ライオンズクラブ（335-D地区）
→たじま聴覚障害者センターへアルミ缶高速選別圧縮機とアイドラゴン寄贈。缶圧縮機の寄贈により作業効率が従来の6倍に上昇。財政的な自立支援に貢献した

エブリデー・ヒーロー

＊ライオンズクラブにまつわる「ちょっといい話」募集中。会員の皆さんだけでなく、会員家族、事務局員などライオンズにかかわる方の投稿を歓迎します。▼800～2千字程度の文章にまとめ「エブリデー・ヒーロー」係へお送りください。送付先は57ページをご覧ください。

イラスト／吉田悦子

"Lions are everyday heros."

「家族の絆」

毎年12月23日には、クリスマス家族会が開催されます。メンバーと共に参加される家族の構成は、時の流れに応じて変わります。初めはご夫婦で、それから家族そろって、やがてお孫さんたちを含む大家族となって、そして再びご夫婦お二人での参加となります。毎年、家族会の参加者は100人以上になり、メンバーを支える家族が一つに集います。その絆が戸田ライオンズクラブの宝です。

ある年のクリスマス家族会が終わり、帰路に着こうとしていた時のことです。メンバーのお孫さんが「おじいちゃん、楽しかった。また来ようね」とつぶやくのを耳にしました。心の中で「おじいちゃんとまた来てね」と答え、ほろ酔い気分で楽しい会場を後にしました。今年の家族会でも、温かい光景が見られることを願っています。

奥墨健司／埼玉県・戸田ライオンズクラブ

「清掃奉仕で拾った縁」

以前クラブが行った「木曽川河川敷清掃アクティビティ」の際、地元ボランティアの方とお話しする機会があり、名刺交換をさせて頂きました。

後日、この活動に関する通知をしていなかったにもかかわらず、国土交通省から感謝のお電話を頂きました。不思議に思い、なぜ知ったのか尋ねたところ、匿名で私たちの活動を報告してくださった方がいた、とのことでした。私の携帯電話に直接連絡がありましたので、どう考えても名刺をお渡しした方から報告があったとしか思えません。これがきっかけとなって国土交通省との縁が出来、その後の活動の助けとなりました。

ゴミを拾っていたつもりが、いつの間にか素敵な縁を拾っていたのだなと感じました。

加藤敬仁／愛知ニューセンチュリー・ライオンズクラブ

「頭が下がるライオンズの活動」

子ども時代を過ごした松江市や岡山市で、「ライオンズクラブ」と書かれたゴミ箱を見掛け、子ども心に「何だろうなー、ライオンズクラブって」と思っていました。10年前、主人がそのライオンズクラブの一員になると聞いてびっくり。九州の真ん中にある田舎町のクラブは私の思い描いていたイメージとはかけ離れていましたが、月1回の清掃活動一つをとっても、よく続けているなあと頭が下がる思いです。

ボランティア活動が唯一の趣味と言えるのではないか、という主人は、町の役でも組合の役でも決して「いや」とは言わず、何でもこなしてきました。忙しい現役社長兼整備工員兼小間使いの合間にライオンズの活動を続けています。「よくも出来るもんだ」と思うと同時に、誇らしくも思っています。最近はゆっくりと『ライオン』誌を読み、「世の中にはこういう努力をしている人たちがいるんだ」と、とても勉強になります。

ライオンズの皆さん、どうぞこれからも活動を盛り上げていってください。

長野治子／熊本県・中央ライオンズクラブ家族

SCENE

黄金色に輝く清田の実り。我が町を知る稲作体験。

北海道・札幌清田ライオンズクラブ

■文／久保晋作　写真／明人

札幌市清田区。厚別（あつべつ）川が流れる札幌市の南東部に位置する。地名は、美しい清らかな水田地帯という意味。だが今では区内に稲作農家はゼロ、水田はわずかに残るだけだ。

130年前の開拓時代、「厚別（あしりべつ）」と呼ばれていた未開の地で始まった稲作は、戦後は水田が広がる農村地帯になった。清田の名はこの時に付けられた。以降、札幌が都市化の一途をたどるにつれ、水田は次々に宅地へと変化していった。

そんな清田の原風景を残そうと立ち上がったのが、札幌清田ライオンズクラブ（三橋国昭会長／59人）。4年前にチャーター・ナイト20周年を記念して、清田小学校の敷地内に学習水田「ゆめ田んぼ・あしりべつ」を造成、寄贈した。以来、米作りを通して、自然の恵みや清田の歴史を知ってもらおうと、5年生の児童を対象に田植え、稲刈りの体験学習を開催。今年で4回目を迎える継続事業になっている。

9月25日、稲刈り作業におじゃました。校庭の隅、220平方メートルの田んぼには倒れんばかりに頭を垂れた稲穂が並ぶ。すべて北海道産の品種で、うるち米の「ななつぼし」、もち米の「白鳥」、130年前に清田で最初に収穫された「赤毛」の3種類だ。

「敷地内にこれほどの水田があるのは市内の小学校ではうちぐらいです」と話すのは白石邦彦校長。今では希少な「赤毛」の苗は、隣の北広島市の水稲赤毛種保存会から同市教育委員会を通じて譲り受けている。

児童たちの稲刈りは授業の一コマで行われるため作業時間は1時間。2クラス約80人が、もち米の刈り入れ作業をした。稲作経験者でゆめ田んぼの管理を担当しているライオン林義隆から鎌の使い方などを指導してもらった後、早速作業開始。児童は横一列に並んで順番に稲を刈っていく。刈り終わった稲穂は後ろで見守っていたメンバーに手渡され、わらで二つに結わえてはさ掛けをしていく。

稲を刈り取る感触が面白いのか、「もう1回、もう1回」と再び列に並ぶ子もいれば、自分の刈った稲穂を友達と見せ合う子、どこからか現れたカエルを追いかける子など、それぞれに稲作体験を楽しんだようだ。

収穫後も体験学習は続く。はさ掛けした稲穂は2週間天日乾燥させ、10月9日に足踏み脱穀機を使って脱穀。12月にはみんなでもちつきをして食べる予定だ。

事故米の報道が連日テレビを騒がせているが、子どもたちは米一粒を作る大変さ、自分で作った米を食べる安心を感じてくれるだろう。

委員会ごとに例会企画を競い合い 一体感とモチベーション向上を図る

静岡巽ライオンズクラブ

静岡巽ライオンズクラブ（江井庄吉会長／54人）の例会は委員会ごとに企画を立て、計画委員会が年間予定に組み入れている。10月第1例会は静岡駅近くの産学交流センター演習室で、環境・IT委員会（前田芳秀委員長）担当の「ITに慣れよう例会」を実施。会長あいさつ、幹事報告、委員会報告などに続いて、前田委員長を講師に勉強会が始まった。

今回の企画は会員とクラブ事務局の通信をIT化して、ペーパーレスを目指すという環境・IT委員会らしい発想から生まれた。最初はマウスの使い方からスタートするなど、先行きが心配だったが、その後はクラブの活動をPRするためのブログの開設や、会員と事務局がデータを共有するためのオンライン・ストレージなど、クラブとしての実用的なIT活用法が紹介された。出席者も思いのほか熱心に取り組み、「今更聞けない」パソコン操作やネットの使い方などを、IT委員や事務局の大塩さんのサポートを受けながら学んでいた。

次回10月第2例会は4人1組でディスカッションをする交流例会で、他に留学生や障害児、児童養護施設の子どもたちと共に活動するものなど、アクティビティに結び付く企画も多く、例会が会員のモチベーション向上にもつながっているようだ。

結成から半世紀の節目を ライオンズを見つめ直す機会に

福井県・大野ライオンズクラブ

福井県内で2番目のクラブとして結成されてから半世紀。大野ライオンズクラブ（金森啓造会長／44人）は結成50周年を記念してフォーラム「未来に向かってウィ・サーブ」を開いた。「記念式典に現、元国際理事がご出席くださることになり、この機会に国際理事と直に語り合う場を設けたいと考えました」と金森会長は話す。

記念フォーラムは式典翌日の10月12日、栢森新治国際理事、伏見龍、石橋幹雄、大久保彦各元国際理事をスピーカーに迎えて福井市・福井自治会館で開催。周辺クラブなどから約80人が参加した。第1部は質疑応答で、事前に参加者から提出された質問への回答。会員減少が続く現状を危惧して会員増強に関する質問の他、海外での活動状況を知りたいという声もあった。第2部ではGMTリーダーの高田順一元協議会議長をコーディネーターにディスカッションが行われ、国際理事会での経験や国際的な動向が語られた。第1部、第2部それぞれ1時間ずつの構成で、十分な議論には時間不足だったことは否めないが、参加者は最後まで熱心に耳を傾けていた。

司会を担当した松田重治第一副会長は、「参加された皆さんが今までとは少し違った視点でライオンズを見つめ直してくれるのではないかと思います」と、手応えを感じている。

CLUB REPORT クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿は住所、氏名、クラブ名を明記の上、800字程度で。関連写真があれば添付してください

愛知県・西尾東ライオンズクラブ

田んぼアートをみんなで作る

西尾東ライオンズクラブ（55人）は5年前、時代の要請に応える新しいアクティビティの模索を始めた。コンセプトは会員の全員参加、時代にマッチした事業内容、広く市民の協力参加が得られること。そして1年後、「田んぼアートin西尾」がクラブのメーン事業として登場した。

田んぼアートは、青森県田舎館村が村興しとして行っているものを視察し参考にした。実施に当たり、当クラブが主催するものの、資金・労力等、多方面からの協力が必要不可欠である。そこで趣旨を説明し賛同を得て、教育長、教員、JA、農家、PTA、市民、議員など40人余りから成る「田んぼアート実行委員会」を立ち上げた。実行委員長は私が務めることとなった。

実施場所は西尾市の環境保全地区、生きものふれあいの里に決定。最初の年は西尾市で全国蛍サミットが開催されることになっていたので、これにちなんでアートの題材を「蛍」とした。以降「蜻蛉」「蛙」そして今回の「蝶」と続いている。

田んぼアートは現代米の緑色の稲と、古代米の黒と黄色の3種の稲色を利用して描かれる。下絵をパソコンに打ち込み、田面の広さに拡大して距離・位置を決定。指定の個所に稲を植えていく。田植えと収穫祭それぞれに、小学生、中学生を中心とした幅広い年代の500余人が参加してくれた。ほとんどの方が初めて経験する作業だそうだ。楽しそうな笑顔を見て事業の価値を再確認した。また、現地で500余人の昼食を大鍋で支度し全員で食べるのは、風景と共に格別のごちそうであった。収穫した米は、老人施設等に寄付している。

ライオンズの奉仕活動は常に新しい見地で取り組むことで進化し、評価されるものになると思う。田んぼアートを通じて学んだ成果である。

（会長、市民レクリエーション委員長／大嶋吉則）

（編）遠方からアートを見にくる人もいて、初年度は3万人、以降は年間2万人が訪れているとか。1週間程ライトアップもしたそうです。

福井県・敦賀みなとライオンズクラブ

中学校でライオンズクエストの授業を実施

イラスト／篠田和夫

9月26日、敦賀みなとライオンズクラブ（和田稔会長／68人）がレオクラブの関係でお世話になっている高校の中等部で、ライオンズクエストの授業をさせて頂いた。

当初は、先生方にこのプログラムを紹介する機会を作って頂こうとお願いに上がったのだが、教師への説明とは別に、授業でやってみてもらえないかと提案され、嬉しいやらビックリするやら。

ワークショップを修了してクエストの授業を行う資格を得ている私が、外部講師として学級活動の時間（50分）を頂き、同校1年生40人に授業をすることになった。内容は「上手に聞く方法を学ぶ」。クエストのセミナーや体験会でよく紹介される単元だ。教壇の高さは約20㌢と低いはずなのに、子どもたちのまっすぐな視線を浴びると、とても高いお立ち台に立たされたような緊張感があった。

精いっぱいがんばったが、果たしてワークショップで学んだようにうまく出来ただろうか。改めて、教師という職業に敬意を感じた。先生方からは、先立って行ったプログラムの説明と併せてよく理解出来た、取り入れてみたい、など良い反応を得ることが出来た。

10月末に地区主催で行われるワークショップにも、同校の先生が参加することになった。

このワークショップ後に、学校でのプログラム導入を判断したいとのこと。良い返事が頂けることを望む。ライオンズクエストの普及と青少年健全育成に、これからもクラブを挙げてがんばっていきたいと思っている。

（ライオンズクエスト・青少年指導副委員長／清水直喜）

（編）ライオンズクエストは、子どもたちが日常の中で体験するさまざまな困難を克服し、健康に成長していくための「ライフスキル（生きる力）」を育てるプログラムです。

徳島県・阿波ライオンズクラブ

省エネ見学会

阿波ライオンズクラブ（川上直義会長／40人）は8月21日、今期会長方針「地球に優しい環境保全と省エネ推進」に基づき、四国電力の協力を得て徳島西部地方の水力発電所の見学会を行った。

当日は会員、家族ら22人が参加。四国電力から2人の方に随行頂き、朝8時40分にバスを仕立てて出発。車内で見学個所の概要について事前説明を受け、松二発電所・井川変電所→池田制御所→出合発電所と順に見て回った。

各見学個所では現地の担当者から発電や送電の仕組み、制御について、実設備や模型を使って分かりやすく丁寧に説明して頂いた。

今年は渇水の影響で発電設備の稼動は一部に限られていたが、参加者は、水力発電が環境に優しい発電設備の原点であること、また、発電から家庭までの電気の流れがよく理解出来たと思う。

私たちは日頃から、電気は空気のような存在で、いつでも自由に使えるものだという感覚を持っているが、今回のように厳しい環境の中で発電や送電がなされているのを目の当たりにすると、もっと日常生活の中で電気を大切に使わねばという気持ちになった。参加者の省エネへの関心も高まったものと思われる。

今後は電力のみならず、日常生活にかかわるさまざまなエネルギーや環境、二酸化炭素削減などについて最も身近な問題として関心を持ち、地球に優しい活動を推進していきたい。

（幹事／秋月敏夫）

（編）町ぐるみで省エネ、エコロジーを進めるために、ライオンズがリーダーとなってください。

青森県・三沢木崎野ライオンズクラブ

少年野球新人戦大会

三沢木崎野ライオンズクラブ（堀内幸夫会長／26人）は9月13、14日の2日間にわたり、市総合運動公園で第8回木崎野ライオンズ杯少年野球新人戦大会を開催した。

地元野球協会の協力を得て2001年にスタートした同大会。参加チームは年々増えて盛大になってきている。今年度は12チーム約300人の選手が参加。手に汗握る熱戦、好ゲームを繰り広げた。

当日は晴天に恵まれ、子どもたちは練習の成果を存分に発揮した。特に2日目の決勝戦はすばらしく、木崎野ライオンズスポーツ少年団と三沢小ジャイアンツは熱戦の末、4対2で前者が優勝を飾った。

試合終了後にはチーム及び選手たちに各賞を贈呈。会長特別賞は、惜しくも第3位となった甲洋ドリームスでショートを守った松林亮太選手（9歳）だ。我々も選手の保護者から、「この大会をずっと末永く続けてくださいね。自分たちも協力します」という言葉をもらい心を打たれた。それは奉仕の心、ライオンズ外部の会員がいるのだと思われたのである。

我がクラブは、世界のライオンズの一員としてこの大会を誇りに思っている。これからも会員の和を大切にし、奉仕活動を広げていきたい。

（青少年健全育成委員長／天摩勉）

（編）同クラブ会員は自身のスポーツ参加も積極的。先日は、むつライオンズクラブが協力しているむつ市の「まさかりレガッタ」に参戦したそう。

茨城県・常陸太田ライオンズクラブ

男の料理教室開催

常陸太田ライオンズクラブ（石川一博会長／50人）は9月11日の例会日、「男の料理」と題した生活習慣病予防教室を開催。食生活改善推進協議会の三次満佐子さん他3人の先生の指導の下、慣れない包丁を握り大奮闘した。

この企画は石川会長の提案。会長は昨年、68歳の若さで地域の老人クラブに入会。現在の高齢化社会に対して、ライオンズクラブは何が出来るかを探ろうという意図もあったらしい。ここで、中高年の料理教室が行われたのだ。男女一緒にエプロンを付け帽子を被り、低カロリー料理を作って全員で試食した。これが大変楽しかったので、7月に会長に就任すると早速例会計画に組み込んだというわけ。「男子厨房に入るべし」を掲げ、「奥様が泣いて喜ぶ、米の磨ぎ方、水の分量指導から始まり、最後には後片付けまで勉強するので、愛用のエプロンを持たせ例会に送り出してください」と案内した。

当日のメニューは青魚の彩りビビンバ、わかめと豆腐の酢辣油、キュウリとイカの炒め物、コーヒー羹。4品で625キロカロリー、塩分4・3グラム。普段は料理などしない人ばかりの割には堂に入った風で、和気あいあいの中、2時間掛けて完成。ビビンバが特に好評で、ある先輩メンバーは「家帰って再現する！」と大張り切りだった。

（幹事／根本龍司）

（編）カロリーや塩分を抑えた食事を作るのは結構大変ですよね。一緒に教わりたいと思っている奥様も多いかも。

埼玉県・上尾ライオンズクラブ

地震被災地で復興支援イベントに協力

地震発生から100日を経過した9月28日、上尾ライオンズクラブ（河野淳二会長／67人）は、宮城県栗原市で開かれた岩手宮城内陸地震復興チャリティーイベント「頑張ろう栗原！　ファイト栗原！」に参加。三役を始め9人のメンバーが、餅つき大会やチャリティー活動に協力した。当クラブは地震から1カ月後の7月にもJR上尾駅前で募金活動を行い、最も被害の多かった栗駒、一関厳美渓の両ライオンズクラブに義援金を贈っており、現地を訪れたメンバーは、地元市民の温かい歓迎を受けたのである。

この日の復興イベントは332－C地区第5リジョン第2ゾーンの合同アクティビティ。復興よさこい元気まつりや、チビッ子餅つき大会、歌謡ショー、大抽選会と次々に出し物が披露され、会場いっぱいに集まった被災市民ら500人の顔には笑顔があふれていた。楽しいひと時は彼らに勇気と元気を与え、大きな成果を収めることが出来たようだ。

また、当クラブの9人は、栗駒ライオンズクラブの千葉前会長の案内で栗駒山を訪れ、大きく崩れた山肌、地滑りの跡、崩れた道路、はがれた瓦屋根など、いまだ行方不明者もいるという生々しい現地も視察、一日も早い復興を願いながら帰路についた。

河野会長は「多くの上尾市民の理解と協力でこうしたアクティビティが出来た。地域に顔の見える活動の大切さを改めて実感した」と語った。

（幹事／三輪博）

（編）地震発生から時間がたっても被災地を気に掛け支援することが、復興努力を続けている現地の方たちに勇気を与えるのだと思います。

兵庫県・姫路南ライオンズクラブ

2事業同時開催の試み

姫路南ライオンズクラブ（田寺一大会長／29人）では、メンバー減少による資金不足が続いている。そこで7月21日、地元行事に参加して、資金獲得事業と盲導犬育成募金活動を同時開催することを企画した。当クラブ初めての試みである。

晴天に恵まれた当日。ブースには姫路南ライオンズクラブの看板。ライオン・レディーにも協力頂いて、メンバー手づくりの焼きそばパン、ホットドッグ、ジュース等を販売した。獲得資金は地元障害者施設への寄贈と、小学校児童を対象としたアクティビティのための事業資金に運用した。

盲導犬育成のための活動ではバザーを実施。更にステージにアピール犬が登場し、盲導犬協会の方が盲導犬育成の現状や意義を説明した。こうして理解を求めた後、地元市民とメンバーが一緒になって募金活動を行った。盲導犬を身近に見、アピール犬には触ることも出来たので、小さい子ども連れの方たちも足を止めてくれて、より多くの協力を得ることが出来た。炎天下、愛嬌いっぱい振りまいてがんばってくれたアピール犬に感謝！　感謝！

活動に深い理解を示してくださった皆様のおかげで、たくさんの募金も集まり大盛況のうちに終了した。こうした成果を上げることが出来たのも、初代会長から貫いてきた地域密着の活動を通じて、地元市民との間に確かな信頼関係を築いてきたことの証だと確信する。

この後の家族例会では「クラブの和」を強化した。これからも地域密着型クラブとして更なる躍進を目指したい。

（PR・IT・会報・ライオンズ情報委員長／水田勝啓）

（編）信頼されてこそ協力も得られる。シンプルだけど容易なことではありません。それを実践実証されている姫路南ライオンズクラブさんは立派だと思います。

335-C地区第2リジョン

アイバンク登録訴えパレード

335・C地区第2リジョンは10月5日、ライオンズ奉仕デーの合同アクティビティとして、アイバンク登録を呼び掛けるパレードを実施した。ルートは京都市中京区から下京区にかけての繁華街。会員約200人が横断幕を手に、御池通から河原町通、四条通を行進した。また、市内目抜き通り3カ所で、別の会員らがアイバンク登録の申込書などのチラシを約千枚配布、市民らに理解と協力を呼び掛けた。あいにくの雨となってしまったが、道行く人々が快くチラシを受け取ってくれたのがうれしかった。当日十数人の方がその場で登録をしてくれた。

奉仕デーにアイバンク登録のキャンペーンを行うようになったのは10年程前。ヘレン・ケラー女史の「ライオンズよ盲人の騎士たれ」という呼び掛けに応えようと、市内17カ所でチラシを配っていた。昨年からはPRを点から線へ、パレードも行うことにした。

角膜移植を待つ人の数に対し、提供数はまだまだ足りず、もっと多くの方に登録・提供して頂く必要がある。アイバンクという組織とその働き、そして待機者の現状を知らない人は多い。私たちはこれからも広く訴え続けていきたい。（第2リジョン リジョン・チェアパーソン／近松保美）

（編）現在約3千人の人々が角膜移植手術を待っています。毎年約1500件の手術が行われていますが、新規に追加登録される待機者もあり、その数はなかなか減りません。提供者の増加が望まれます。

徳島すだちライオンズクラブ

少年野球教室開催

徳島県阿南市は「野球のまち・阿南」というキャッチフレーズを掲げ、全市で野球スポーツ振興を展開している。そこで徳島すだちライオンズクラブ（生田素久会長／40人）は9月6日、同市桑野町にあるアグリあなんスタジアムで、5周年事業として少年野球教室を開催した。

我がクラブは青少年育成に重点を置いたアクティビティを継続的に実施している。硬式少年野球チーム「徳島ホークス」の支援も行う。今回はクラブ結成後最初の周年事業ということで、市内の少年野球チームを招待して野球教室を開催した。指導をしてくれたのは、四国・九州アイランドリーグの徳島インディコソックスのメンバーである。

生田会長は「スポーツを通じて団体の和の大切さを学んでください」とあいさつ。プロ選手の指導を受けて技能向上を図ると共に、スポーツを通じて精神力を鍛えることの大切さを訴えた。

少年たちはプロの指導を受けられることに大いに感激、緊張し、一球、一振り、一走塁に真剣に取り組んでいた。指導者たちは子どものレベルに合わせた指導をし、プレーについての悩みにも丁寧に回答してくれた。プロ選手たちも野球を続けることで友情が深まり、それが人生の支えであったことを話してくれ、その言葉は子どもたちの胸にも強く響いたと思う。

当日ご出席頂いたリジョン・チェアパーソンや地区役員には、記念事業の在り方について助言を頂くことも出来た。

更に何と、クラブ・メンバーの結婚式も同球場で開催。観衆約2千人の人前結婚式である。会員の結婚と当クラブの5周年の2大祝典となったわけである。球場に集まった方々にもライオンズについて大いにPR出来たと考えている。（PR情報委員会）

（編）それはおめでたい一日でしたね！ ライオンズ、ご夫婦共に末永く仲良く活躍されますことをお祈り申し上げます。

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→56ページ

会員増強3330人目標達成に向けて

萩原　光義（茨城県・土浦北）

　地区分割により誕生した新生333・E地区（茨城県）の第1回三役研修会が、2007年5月26日に開催され、私はガバナー方針の一つ、会員増強の絶対必要性を唱え、目標達成のために会員増強特別委員会を設置し、333・E地区80クラブに熱く会員増強のお願いをしました。

　元は栃木県と共に333・B地区として、4195人の会員数を擁していました。が、2007年7月からの分割で、E地区は2826人になりました。ただ自然増を待っていたのでは、会員の高齢化もあり、衰退の道につき進むのは必然です。

　昨年は、戦後最長の息の長い景気拡大が続いたと言われましたが、地方にはそんな実感はありませんでした。経済的理由で退会する会員も数多くあり、会員の維持すらままならない状態でした。その中で多数の新会員を増やそうというのですから、非常に難しい課題だったと思います。

　そこで私は、会員増強特別委員会を立ち上げ実行することにし、各クラブとガバナーとの垣根を取り除き、コミュニケーションを第一にと考えました。各クラブの入会式には万難を排して伺い、クラブの士気を高め、新会員にライオンとしての自覚を持ってもらうためにも、あいさつと新会員の襟にラペルピンを付けることを実行しました。各地で大変温かい歓迎を受け、クラブの実情を肌で感じ、耳で聞き、個々の会員の思いやら、考えていた構想やら、胸の内を直に聞かせて頂きました。

　また、私からも考えを言葉大にして訴えましたところ、進んで会員増強に協力致しましょうと、本当にうれしい言葉が多々返ってきました。クラブ訪問は大成功だったと今でも確信しています。

　キャビネット開設当時は、とてつもないこと、出来る訳がないと、冷たい言葉も聞かれました。が、周囲が徐々にその気になり、気運が高まってくると、面白いように今日はこちらのクラブ、明日はあちらのクラブと、連日声が掛かるようになりました。

　私が訪問するのを心待ちにしてくださった各クラブの会員各位には、本当に頭が下がります。私が挫折せずに1年間がんばれたのも、皆さんの温かいご支援があったればこそと思っています。

　とはいえ、500人からの新会員を獲得しようというのですから、そうそう簡単にいくものではありません。エクステンション委員会を立ち上げ、今や国際都市化しているつくば市に、新クラブを誕生させようということになりました。これには多くの若い世代の共感を得られ、2世会員が何人も入会してくれました。

　次に考えたのは、ライオネスクラブの支部移行でした。これにはなかなか賛同は頂けず、話は何度も暗礁に乗り上げました。幾度となく親クラブを訪問し、協力をお願いし、やっとのことで同意してもらったことも多々ありましたが、全ライオネスクラブが賛同という訳には参りません。

　結果的にライオネス11クラブ中8クラブが支部化に同意され、160人がライオンズに加わってくれ大きな弾みがつきました。41人で結成された、つくばオーク・ライオンズクラブも大きな原動力となりました。

　私のガバナー就任期間も残り少なくなった6月後半には、地区の会員数は3327人となっていました。が、その後、年度末にかけて退会者や物故会員も多くありました。結果的に会員純増においては日本で1位、全世界885地区の内46位になること

が出来ましたが、既存会員の減少も多くあり、それがとても残念でした。
　決して100点満点だったとは言えませんが、もし行動を起こさずにいたら、どんな結果になっていたでしょう。自然に会員増が出来ていたとは到底考えられません。遮二無二行動したことが多くの方の心を動かし、何とかしなくてはとの賛同を得られ、大きな成果につながったと確信しています。
　目標を達成するには、会員とのコミュニケーションが大切なこと、また行動を起こすことの重要性を身をもって感じました。
　おかげさまで今年度に入り国際会長からアワードも頂きました。これは私一人の受賞ではなく、全会員が一緒に受賞したのです。ご協力頂いた各クラブ、各メンバーに心より感謝申し上げます。
　会員増強は永遠の課題です。これからも共に協力していきましょう。

（元地区ガバナー・64歳）

願わくば続けたい　100%出席!

生駒　健之輔（熊本県・人吉）

　前年度をもって、まるまる入会15年を経過した。
　入会は父親との交替会員としてであった。当時は兄も会計として在籍しており、2人そろって例会に事業に参加していた。その頃は仕事も忙しく、例会が終わると急いで工場（こうば）へ戻り、仕事の続きに手を真っ黒にすることも度々であった。入会後の1年間に1度か2度欠席したことがあったが、以後の14年間は無欠席である。
　私が所属する種々団体の中で、ライオンズクラブが1番、出身中学の奨学生制度の会を2番と位置づけ、出席を続けてきた。
　少し前、ある会員と話をする中、彼は「奉仕をうたいながら、奉仕をしていない」と嘆いていた。確かに奉仕もどきもあるが、「クラブとしての奉仕に疑問があるなら、クラブの名を借りた一人で出来る奉仕もある」と答えたのだが、答えておきながら、実はそれは正常な姿ではないことも自分自身承知していた。しかし、それが起爆剤になり得ることだって無きにしもあらずである。よってたかって危機感をあおるだけの集まりであれば、残念ながら先行き乏しくなることは十中八九間違いないであろう。
　ライオンズクラブ入会後、どれだけの友と人生の糧を得るかが、会員にとって大切なことだと思う。仲間を信じ、支え合い、あらぬ方向へと向きだしたら援助の手を差し伸べ、同じ一本の道に歩を留める。
　希薄になるばかりの仲間意識を濃いものにし、助け合ってこそのライオンズクラブだろう。確固たる団結力の絆を構築することこそ、今、必要なことだろう。
　『ライオン』誌6月号の編集室に「ここ十数年はクラブ数は増えているものの著しい会員減少が続いています。指導力の欠如かあるいは時代の変遷に乗り遅れているのか定かではありませんが……」と山根健（ライオン）の言葉があった。その真意に合致しているかどうかは分からないが、自分なりにうなずけるものがある。また、ライオンズクラブという名称が一人歩きし、会員が置き去りにされていはしないか（勧誘時の説明は万全であったか）。仲間意識のない、人と人とのつながりの希薄さもあるかもしれない。
　最近、ITを駆使した例会をされているクラブもある。ホームページの掲示板に会長が開会を宣言、24時間あるいは1週間以内にアクセスして書き込みをすれば出席となる。しかし、これらのクラブも通常例会への移行を考えておられるようである。

当リジョンでもリジョン誌をインターネットで公開し、各自プリントアウトするようになっているが、果たしてそれが当たり前の姿なのだろうか。便利になればなる程、抜け落ちていくものもある。便利さゆえに囲う不便さだってある。

インターネットの利便性は、顔を向き合って話す機会を減らし、相手へ直接気持ちを伝えることが出来ない。インターネットのうまい使い道と、向き合って話す大切さを今一度考え直したいものだ。

携帯やパソコンでしかつながれない。そんな世代は、ある意味不幸である。画面に表示される文字だけでは人の心が見えないし、本当のところに気付くことも出来ない。人と人があってこそのＩＴ機器と思うのだが。

イラスト／小川和政

ある国会議員が「生産性を上げれば景気は回復に向かう」と言っていた。しかし、地方の中小・零細企業には生産性を上げる前に仕事が無いのである。

設備投資をしようにも費用返済の手立てが無いのである。運良く設備が出来たとして次に起きるのは人余りだ。石油の高騰で日本中の漁師の方が一斉休漁に踏み切り、政府も補填を実施するようだが、我々だってそれは同じことである。石油を使わない資材はない。

駒不足の仕事を体力、設備力で根こそぎ落とされてはもたない会社だってたくさんある。先日、ある学校の事務長さんに昨年度より六百数十円の値上げ（約5万円の仕事）をお願いしたところ、「根拠は何か」と何の認識もなく、結局は認めてもらえなかった。逆に当然のように値下げを要求され、転嫁どころではないのである。

パソコンを買って仕事が入るなら誰だって買う。でも、そのパソコンが買えない。

さて、随分話が飛んだが、こんな状況の中、いつまで会員でいられるか分からないが、その時が来るまでは１００％出席を心掛けたいと思っているところである。

（印刷業・56歳）

気に生きる

河村　好雄（大分県・別府中央）

気には元気、活気、精気、根気、やる気等いろいろの気があり、それらは皆、共通の意がある。

人間には、気が満ちた時と気のない時がある。人は死ぬ時に、気が抜けたと言う。本当に人間は、死を迎えた時には気が抜けるようである。

20年前になるが、病床の母（家内の母）が私に「好雄さん、私はもう気が抜けたわ」と言われたので、私はとっさに、「お母さん何を言うんですか、気をしゃきっと持たなきゃ駄目ですよ」と言ったが、お母さんの目はうつろだった。そしてその翌日、母は帰らぬ人となった。

人間は死ぬ時、体内から人魂が抜けて出て行くと言われている。

40年も前になろうか、その母から「好雄さんは体が大きくないから、居合一本槍で行った方がいいんじゃないかえ（それまで私は剣道もやっていた）。弟（家内の弟）は体が大きいから剣道を主にやったらどうか」と言われ、私は素直にそれからは剣道は止め、居合一筋に進んで来た。

おかげで、居合最高位の居合道範士九段

になった（全国で2人）。義弟は現在、剣道範士八段となっている。義母が私に居合への道筋をつけてくれたと感謝している。

ここでちょっと居合道について触れておこう。

そもそも居合道とは、今からさかのぼること400余年前、永禄年間の戦乱の世に興った。

奥羽の地（現在の山形県村山市楯岡町）から出た林崎甚助重信公によって編み出された刀術で、林崎甚助から湧き出た居合の泉はとうとうと清水をたたえ、大河をつくり、時には流派を分かちながら、現代に至るまで脈々と流れ続けている。その門人たちによって興された流派は、現在は十指に余る。ちなみに私が修練しているのは夢想神伝流（全国でこの流派人口が最も多い）である。

剣道、居合道共に日本刀に源を発し、その関係は密接なものであり、居合道は剣道の奥の院と言われている。剣道より入りて、行き着く先は居合道であると。両道共に、日本の伝統的文化遺産である。それで剣居一体と言われる。

「居合とは人に切られず人切らずただ受け止めて平らかに勝つ」と言われているように、むやみに刀を抜かない。居合の極意（心）は鞘の内と言って抜かずして勝つ、居ながらにして合わすの意である。修練を積むことによって心を磨くのであり、人間形成の道を学ぶのである。技の動きは宙ではなく、あくまでも仮想敵をしっかりと見究めて行う。

以上のように、気力充実には居合道が最高であると私は信じている。刀の振りかぶりから切りつけた時、剣先に伝わる気が充実して気力となるようである。

気が充実しておれば人間は健康である。居合のおかげで健康であり、健康だからまた好きな居合が出来る、ありがたいなと思って毎日の居合の修練に励んでいる。

全国各地の居合道大会等に招かれ出て行き、最高位九段としての模範演武を行っている。九段の名に恥じない技を披露するためには日頃の修練を怠るわけにはいかない。

この年になってこのようにやっていけるのも居合のおかげと信じて、気力充実に努め、気に生きる生活に励んでいる。居合道の本筋である人間形成の道を死ぬまでたどって行こう。

（税理士・84歳）

少年期の忘れ得ぬあの歓喜 恩讐を超えた寛容に改めて感恩

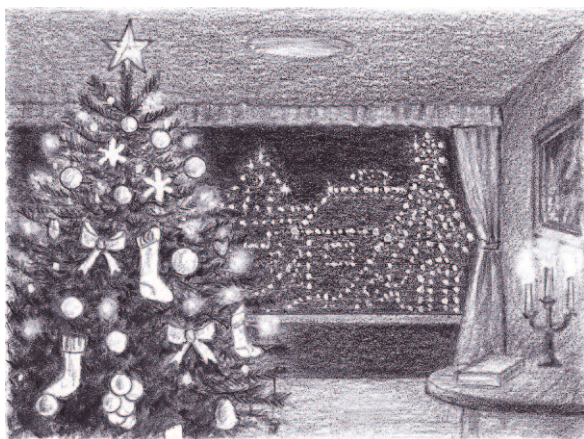
小西 宗仁（千葉県・船橋）

残りとは言われぬ暑さの中にも秋草の出そろったある日、千葉県最北東端の銚子市に、地球の丸く見える丘展望館を訪れる機会に恵まれた。

「雲へだつ　ふたつの国の同胞が　互の慨き　のり越えつ　緊く結びし　心とこゝろ　友愛の浄火　仄々と　永劫不滅に　あゝ燃えにぞ燃えよ」寺下辰夫

日本とフィリピンの永遠の友好を願う言葉が石碑に刻まれていた。この日比の友愛の碑に案内してくれた銚子ライオンズの安藤、梶木、名内の好意に感佩した。

フィリピンのマニラ・ライオンズが日本の東京ライオンズのスポンサーであることは周知の通り。このマニラ・ライオンズと、当時15歳の少年であった私との出会いを忘れることが出来ない。

私は中等科3年生で野球部に在籍し、毎日厳しい練習に汗していた。都心の学校としては静かで広大な森に囲まれた環境下とはいえ、物資は極めて乏しく食生活も粗末なものであった。

8月の炎天下、ライオン今村栄吉（東京ライオンズクラブ）の案内でマニラ・ライオンズクラブの会員が数人訪問され、ボール、グローブ、バットを寄贈してくださった。目にも鮮やかで、まばゆいスポーツ用品との出会いに歓喜した。物豊かな昨今の現代っ子には想像も出来ない大興奮の一日であった。

この人たちこそ、東京ライオンズクラブをスポンサーされたマニラのライオンズ・メンバーであったことを認識したのは今から25年前、私がライオンズに入会した１９８３年である。１９５２年３月、フィリピンのスポンサーにより日本に初めてライオンズクラブが東京に誕生したことを先達メンバーから仄聞し、私は改めて感動を禁じ得なかった。当時の恵まれない日本の少年たちに夢を与えてくれたことに、しみじみと感恩する。

戦争の恩讐を超えて人間の進歩と平和を願うライオンズ精神が、日本の指導者を感激させ、以来わずかの歳月に多数の会員を獲得し、日本を成長させてくれたのも、マニラ・ライオンズクラブの友愛あればこそと実感する。

今、例会場に揚げている「日の丸」や、斉唱する「君が代」に現会員は特別の感慨を抱くであろうか。ごく当たり前の様相と受け流していると思う。52年3月21日に催された我が国初の東京ライオンズクラブのチャーター・ナイトに国旗が掲揚され、君が代が斉唱された瞬刻、メンバー全員が滂沱（ぼうだ）の涙を流されたという。51年9月、サンフランシスコで世界52カ国の参加により対日平和条約が調印されたが、条約発効は翌年の4月28日であり、敗戦国日本はGHQの許可なしでは何事も実践、実行が困難な時代であったことは言うまでもない。

東京ライオンズクラブの石川欣一会長はチャーター・ナイトで「日本とフィリピンは、前の悲しむべき戦争が勃発して両国の絆を裂くまではよき友人であった。今日の日本人の多くは同胞がフィリピンに犯した罪を自覚し、戦前の両国関係を取り戻したいと心からこいねがっている。このような時に東京ライオンズクラブをスポンサーするという温かい友情の手がフィリピンから差し伸べられたのである。この善意と寛容の行為に我々はいたく感動を受けました」とスピーチされたという。

先達の勧めでライオンズクラブに入会した私の動機の一つは、あの貧しかった少年時代に、夢にまで見た新しい野球用具を贈ってくださったマニラ・ライオンズクラブのおじさんの微笑であったことを否定しない。

我がクラブの先輩ライオン斉藤貞雄、ライオン木下務の呼び掛けで両親を亡くしたフィリピンの子どもたちとのささやかな交流が始められて既に久しい。昨年の秋、私が里親となっているマイケル中山君が、かわいいお嫁さんを連れて日本にやって来て旧交を温めた。

私は前年度の地区ガバナーとして「簡朴と礼容に心して　世界に示そう奉仕の美学」を提唱し、みんなの力でみんなで挑んだ1年間。望外の成果を挙げられたのもやはり56年前のあの貧しく乏しく「足るを知る」少年期にマニラ・ライオンズクラブから贈って頂いた夢があったればこそと想起する。

残暑の日照りの中で、丸い地球をゆっくりと見渡しながら、我がライオンズ人生に「自彊息まず（じきょうやまず）」と語りかけていた。（仁恕）

（元地区ガバナー・茶室建築家・71歳）

Close up

衝撃のサッカーリーグ O-70誕生の立役者

清水には8年前から60歳以上（O-60）の「清水スーパーシニアサッカーリーグ（6チーム）」があり、月に約3試合行っています。ただここ数年は、団塊の世代が対象年齢になり、「若手」が増えてきたんです。すると、チームとしてはやはり勝ちたいですから、どうしても「若い」選手の起用が多くなり、70歳以上の出場機会が減ってきた。でも、まだまだみんな現役選手としてプレーしたいという気持ちが強いんですね。

そこで今年4月、70歳以上（O-70）の選手を集めた「清水ロイヤルサッカーリーグ」を起ち上げたんです。今のところ、清水の中心を流れる巴川を境に東西に分け、2チームで運営しています。

リーグの合言葉は「GNPを上げよう！」です。元気で（G）、長生き（N）、ポックリ逝こう（P）――スポーツやってる人間は病気にならず、ポックリ死ねるというのが、私の持論でしてね。今、後期高齢者医療制度が問題になっていますが、そういう意味でも我々は社会貢献しているわけですよ（笑）。

私自身は高校までサッカーをしていましたが、大学（多摩美術大学）、社会人（印刷会社）と、サッカーとは無縁の生活でした。しかし、焼津の友人に誘われ静岡に住むようになったことで、再びサッカー熱に火が付きました。きっかけは長男が始めた少年サッカーです。当時、清水には父親サッカーというのがあって、子どものチームが負けても親のチームが勝てば引き分けとか、学校ぐるみ家族ぐるみでサッカーを競っていました。私もそこでプレーし、その後もサッカー協会の役員を引き受けるなど、徐々にサッカー王国・清水に染まってきました。

いちばん思い出に残っているのは、清水みなとライオンズクラブの15周年記念事業で、「全国ろうあ者サッカー大会」を開催したことです。東京から大阪まで、太平洋側の都府県はすべて参加してくれました。静岡は沼津から浜松に至るまで、県選抜チームを編成したんですが、シニアサッカーの仲間が練習相手などで協力してくれました。彼らとは今も一緒にプレーしていますが、サッカーを通じて人生を豊かにしてくれる最高のチームメイトですよ。

■堤貞夫

つつみ・さだお　静岡県・清水みなとライオンズクラブ。1938年滋賀県長浜生まれ。67年、清水で㈱つつみアドポップを設立。81年清水みなとライオンズクラブ入会、02年度クラブ会長、06年度334-C地区PR委員。シニア・サッカーで活躍するかたわら、100m13秒台の走力を生かしマスターズ陸上に出場。今年の全日本選手権では70歳以上の部の60mで優勝、100m、200mで準優勝に輝いた。清水サッカー協会参与、清水ロイヤルサッカーリーグ運営委員長。

構成・写真／編集部

ライオン堤はシニア（清水スーパーシニアサッカーリーグ、ロイヤルサッカーリーグ）の他、オール清水代表、更には西日本選抜チームにも所属、月に4〜5試合をこなしている

ふるさと探訪

山梨県勝沼（甲州市）

甘い薫りに誘われて、国産ワインのふるさとを行く。

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

❶「全財産を外に置いてあるようなものですから」とライオン野沢。ブドウをいたわるように摘み取っていた
❷❸甲州ワインの原料となる甲州種ブドウ。かの武田信玄もその味を愛したと言われる

「笹子下ろし」に育まれて

東京から中央自動車道を甲府方面へ向かう途中、5キロ近く続く長い長い笹子トンネルがある。数分間の暗がりを抜け、目の前に飛び込んできたのは、陽光きらめく一面のブドウ畑であった。

山梨県甲州市勝沼。日本有数のブドウ産地であり、日本で初めてワインが作られた場所である。現在、町内には32の醸造所（ワイナリー）があり、それぞれ自慢のワインで勝沼ブランドの名を高めている。9月下旬頃からワイン用のブドウの収穫が始まり、市内にあるワイナリーは次第に慌ただしくなってくる。

「今年の出来は例年並み。ただ、最近はなるべく農薬を使わないで育てるため、病気にかかるブドウが目立ちます。そうなると糖度が上がらないのです」

と山梨ワイン代表のライオン野沢貞彦（勝沼・大和ライオンズクラブ）。ワインがおいしいかどうかの決め手は、糖度の高さにある。いわばワインの命だ。

ブドウの糖分は発酵によって炭酸ガスとアルコールに変わる。ずっと発酵させ続けると糖分はどんどんアルコールに分解されて辛口に、発酵を途中で止めるとブドウの糖分が残るため甘口になる。つまり発酵をどこで止めるかによって、甘辛の違いが出る。だから糖度が高ければ高い程、アルコール度

数の高い、おいしいワインが出来るのだ。

糖度の天敵は雨。地面が湿ると、水分がブドウの中に戻り、その分糖度が下がる。反対に雨が降らないと、ブドウは小粒になるが、果汁は凝縮されて糖度が高まる。生食用はいかに奇麗な房を作るかが求められるが、ワイン用は徹底して糖度の高さだ。

十分な糖度を得るにはしっかりと陽の光を浴びるだけではなく、昼夜の温度差が激しい環境で育つことが求められる。冒頭に出てきた笹子トンネルの真上には、かつて甲州街道の最大の難所と言われた笹子峠が横たわっていて、この峠から「笹子下ろし」と呼ばれる冷たい風が勝沼の街を吹き抜ける。中でも、風の通り道であるため、最も冷え込みの激しい峡東地区に、ワイナリー所有のブドウ畑が集中しているから面白い。自然の理と人智の交わりによって、ワイン作りが行われていることを物語っている。

世界へ羽ばたく甲州ワイン

何でも、現在ヨーロッパではアジア食がブームらしい。というわけで我が日本料理もますます注目されているようだが、今年の初めにそれを裏付けるかのようなニュースがあった。

「山梨県産の甲州ワインが国産ワイン

として初めてEUの認定を受け、ロンドンに向けて出荷」というものだ。甲州ワインとは、甲州種ブドウを使った白ワインのことで、勝沼の特産品。甲州ワインは和食によく合うことが評価されており、今後もヨーロッパへの輸出が続くと予測されている。

　さてこの甲州種ブドウ、原産地は小アジアのコーカサス地方で、シルクロードを越えて中国に伝わり、仏教と共に日本にもたらされた。勝沼では1300年前から栽培されており、戦国時代の武将武田信玄も戦勝祈願の折に勝沼でブドウを食したと伝えられている。このエピソードからも分かる通り、甲州種はもともと生食用でワイン専用の品種ではなかった。

　勝沼でワインが作られるようになったのは、1877（明治10）年のこと。勝沼の地から二人の青年が、本場フランスへワインの醸造技術を学びに留学したことに始まる。二人の帰国後、山梨県内のワイン醸造は一気に広まるが、ワインは当時の日本の家庭料理に到底合うものではなかった。それでも醸造家たちは「ワインが飲まれる日がいつかきっと来る」と信じ、ワイン作りの灯火を絶やすことはなかった。現に昭和の初め頃までは、県内のブドウ農家のほとんどが、自分たちが飲む自家用ワインを作っていた。

　1941（昭和16）年、ワインを醸造する農家は県内に3千軒程あったが、これが集落単位で協同組合の形態となる。勝沼のワイナリーはすべてこの協同組合から始まったと言っても過言ではない。

「私の集落でも50人ぐらいで協同組合を作りました。当時はワイン作りのための道具がなかったので、日本酒の道具を流用していました」

と（ライオン）野沢は当時を振り返る。

　今ではブドウを粉砕した後、皮と果汁に分離して、果汁のみを発酵させて白ワインを作るが、かつてはこれを分離させずに半日ほど放置した。これが勝沼独自の「半醸し」と呼ばれる醸造法だ。圧搾機の技術が向上した30年程前から上質な果汁が絞れるようになったが、それまでは房の茎も圧搾していたため、出来るワインは渋みや雑味が強かった。地元農家の人々は自分たちで作ったこうした醸しワインを一升瓶に入れて愛飲していた。ブドウ酒という呼び名はそんな所から来ている。

ブドウジュースがワインとなる日

　収穫の秋は、仕込みの時期でもある。品種によって異なるが、ワイン用のブドウの収穫は9月下旬頃から始まる。細かな収穫日は、毎日計測される糖度いかんで決まる。取材で訪れた日には既に、生食・醸造兼用で日本の主要品種の一つであるマスカット・ベリーAの収穫が始まっていた。

　仕込み場の前には、この日の朝に契約農家が収穫したマスカット・ベリーAが700箱分積まれていた。こちらのワイナリーでは、3～4人がかりでこれを一気に機械へ投入して絞りきる。この日は午前中だけの作業だったが、最盛期にはほぼ毎日午前と午後に1回

❶仕込みが行われる醸造場には、ブドウの甘い香りが漂う
❷もともとブドウを貯蔵するために作られた地下のワインセラー
❸ワインに樽の香りが付きすぎないよう、定期的にテイスティングをして樽出しの日にちを決める

ずつこの作業が行われる。
ブドウの粒は機械によって適度につぶされ、茎以外の果汁と実と皮が一緒くたになって巨大タンクへと送り込まれる。赤ワインの場合はこの状態で約2週間発酵させた後、中身を圧搾機に入れて今度は果汁だけをタンクに戻す。発酵した果汁の上澄みを濾過(ろか)し、樽や瓶に詰める。2008年産となるこのワインは、早いワイナリーで11月には新酒としてお目見えするが、大半が1～1年半程樽や瓶で熟成させた後、晴れて出荷を迎える。

結局、700箱分あったブドウは約5600リットルの果肉・皮を含んだ果汁となった。絞りたての果汁を味見させてもらったが、さすが糖度が命のワイン用、これまで飲んだどんなブドウジュースよりも甘みが強かった。この後この甘いジュースがどんなワインに育っていくのか。素人にはなかなか想像が付かないが、醸造家は我が子を見守る親のような心境で、その成長ぶりを想像するのである。

●ブドウ盆栽
ツルを植木鉢の下の穴から通して後にツルを切るとブドウも盆栽に。考案者は17代続くぶどう園・萩浜園のライオン萩原光（勝沼・大和ライオンズクラブ）。昭和26年に10鉢作ったところ、メディアに取り上げられ、以来、町の名物となった。今では、巨峰、デラウェア、ピオーネ、甲州など全部で8種類を年間500鉢作っている。

郷土自慢・クラブ自慢

勝沼・大和ライオンズクラブの郷土自慢は、甲州名菓「月の雫」。生の甲州種ブドウを上白糖から作った蜜でコーティングしたとても不思議なこのお菓子、意外にも歴史は古い。江戸末期、あるお菓子職人が誤って砂糖蜜の中に落としてしまったブドウの粒を口に入れたところ、特有の酸味と砂糖の甘みの取り合わせが絶妙だったという。その味わいに一層磨きをかけたのが月の雫で、甲州土産として今も多くの人々に親しまれている。甲州種ブドウの季節にしかない季節限定のお菓子である。

▼勝沼・大和ライオンズクラブ（三森秀紀会長／45人）＝1964年1月19日結成／スポンサー：塩山ライオンズクラブ

■勝沼・大和ライオンズクラブから読者プレゼントがあります（56ページ）

読者プレゼント

甲州ワインを5人の読者に

「ふるさと探訪」(51ページ)に登場した山梨県・勝沼・大和ライオンズクラブから、甲州種白ワイン「樽醗酵白2007」(山梨ワイン醸造／ライオンズ野沢貞彦)が5人の読者にプレゼントされます。

このワインは今夏ロンドンで開催されたインターナショナル・ワインチャレンジに出品。40カ国から9千種のワインを集め、世界で最も権威があると言われるコンペティションで銅賞(白のスティルワイン部門)を獲得しました。審査員は「生き生きとして口中でキャラクターを感じる。とてもボリュームがあり心地よい味わい」と評価しています。

エコバッグを5人の読者に

「ライオンズ・ニュース・カセット」(26ページ)で紹介した国際協会公認エコバッグが5人の読者にプレゼントされます。

毎日のお買い物に、会議資料の持ち運びに、環境にやさしく便利なエコバックをご活用ください。

応募要領：はがきに住所、氏名、電話番号、クラブ名、ご希望の品「白ワイン」「エコバッグ」のいずれかを明記し、ライオン誌プレゼントあて。本誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp /index.php?op=0)からも応募出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は12月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

2009年1月号予告

THEME **青少年育成**

年々増加を続ける不登校、いじめ、学級崩壊など子どもたちが直面している問題は深刻だ。今、学校で、家庭で何が起きているのか、その実情を知る専門家にインタビュー。また、子どもたちの生きる力を育むライオンズクエスト・プログラムを導入している学校の生徒や教師、保護者の声からその成果を探る。

ライオン誌投稿要領

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。▼住所、氏名、クラブ名を明記。

■クラブ・リポート38～42ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■獅子吼43～47ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。職種、年齢を明記。

■エブリデー・ヒーロー32ページ：ライオンズクラブにまつわる「ちょっといい話」をお寄せください。800～2,000字程度で。会員家族、事務局員の投稿も歓迎。

送付先：
〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630　E-mail：edit@thelion.jp

●訂正とお詫び

本誌10月号、11月号で以下の誤りがありました。関係各位に深くお詫びし、訂正致します。

10月号「ライオンズ・ニュース・カセット」33ページで、国際協会日本事務所の電話番号は03・3494・2931でした。

11月号「ピックアップ」20ページで、鳥取いなば、郡山開成両ライオンズクラブの姉妹提携締結式が行われたのは、鳥取市の鳥取ワシントンプラザ。「ライオンズ・ニュース・カセット」で、27ページ文末の太平洋アジア課Eメール・アドレスはPacificAsian@lionsclubs.org、28ページでは新結成クラブ・和歌山くろしおライオンズクラブのスポンサーは岩出ライオンズクラブでした。

➔ライオン誌事務所来訪者芳名録

月	日	クラブ	氏名
10	9	東京	池崎　道男
10	9	東京渋谷	横山　令一
10	23	岡山県玉野	垣内　一郎
10	27	鹿児島さつま	茂谷　浩司
10	28	千葉県浦安中央	杉山　民生
10	28	千葉県野田	吉岡　稔隆
10	28	東京三軒茶屋	藤村　貞夫
10	29	兵庫県明石魚住	永谷　仁

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages - English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish,Indnesian and Thai.

EXECUTIVE OFFICERS
President, ALBERT F. BRANDEL, 14 Herrels Circle, Melville, New York 11747-4247 USA; Immediate Past President, MAHENDRA AMARASURIYA, No. 70, Fife Road, Colombo 5, Republic of Sri Lanka; First Vice President, EBERHARD J. WIRFS, Am Munsterer Wald 11, 65779 Kelkhem, Germany; Second Vice President, SIDNEY LEE SCRUGGS, III, 698 Azalea Drive, Vass, North Carolina 28394 USA.

DIRECTORS
BISHNU BAJORIA, West Bengal, India; MALIK KHUDA BAKSH, Karachi, Pakistan; DANA BIGGS, California, USA; KEN BIRD, Queensland, Australia; ERMANNO BOCCHINI, Napoli, Italy; WAYNE E. DAVIS, Virginia, USA; RYUICHI GOTO, Chiba, Japan; DR. PATRICIA HILL, Alberta, Canada; KWANG-SOO JANG, Ulsan, Korea; LARRY G. JOHNSON, West Virginia, USA; MAURICE M. KAHAWAII, Hawaii, USA; SHINJI KAYAMORI, Aichi, Japan; VINOD KHANNA, New Delhi, India; EDWARD J. LECIUS, New Hampshire, USA; DOUGLAS A. LOZIER, Indiana, USA; SHYAM MALPANI, Mumbai, India; ART A. MARSON, Wisconsin, USA; DR. JERIMIAH MYERS, Alaska, USA; ELLIS SURIYATI OMAR, Kuching, Malaysia; DR. HAROLD R. OTT, Pennsylvania, USA; GEORGES PLACET, Ludes, France; TAPANI ANTERO RAHKO, Järvenpää, Finland; EUGENIO ROMAN BAEZ, Arecibo, Puerto Rico; BOJAN SOBER, Rijeka, Croatia; DR. TON SOETERS, Huizen, The Netherlands; NEIL R. SPENCER, Florida, USA; BEVERLY L. STEBBINS, Texas, USA; TADAO SUGIMOTO, Hokkaido, Japan; PROF. DR. HAYRI ÜLGEN, Istanbul, Turkey; ROSANE JAHNKE VAILATTI, Penha, Brazil; NELSON VIDAL, Lima, Peru; VINCE VINELLA, Nevada, USA; DEBRA WASSERMAN, Minnesota, USA; WILLIAM B. WATKINS, SR., Tennessee, USA.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　後藤隆一
国際理事　栢森新治
国際理事　杉本忠夫
委 員 長　山根　健（336複合地区）
編 集 長　坂井　正（333複合地区）
委　　員　渡邊豊隆（330複合地区）
委　　員　瀧澤嘉門（331複合地区）
委　　員　坂本和彦（332複合地区）
委　　員　小岱義正（334複合地区）
委　　員　大島康男（335複合地区）
委　　員　塩倉安伸（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

編集室

幅広く見える

ライオン誌
日本語版委員
◉
小岱義正
（静岡県・富士宮）

気がついた時は、窓際の席に座っていました。新幹線に乗車した時のことです。いつも見馴れた景色なのに、何か変わったものを発見出来ることを期待してしまいます。なぜなのだと自問自答の結果、何事にも変化するものに興味を持つ私の癖であることに気づいて、思わず苦笑しながら再び車窓から外を見続けていました。

最近、ライオンズクラブでも、革新とか改革などの言葉が随所で使われています。しかし具体的には何を、どのように変えることなのかが見えてきません。単なる流行語として使われているのでなければよいと思います。『ライオン』誌の編集には、まず読んで頂くためにも、内容をいかにするかが重要です。言葉の選び方によっては人を傷つけることもあります。一字一句の誤字や脱字で内容が変わってしまうこともあります。編集委員としての責任の重さを実感しております。正確に伝えることが出来た時こそ、喜びは大きいものです。新たに、読者モニター制度が始まりました。今後、内容の充実と更なる向上につながることを期待しております。今、ライオンズにとって最も必要なことは、活動の中で発生する問題点をよく調査、分析して、対応を考えることではないでしょうか。

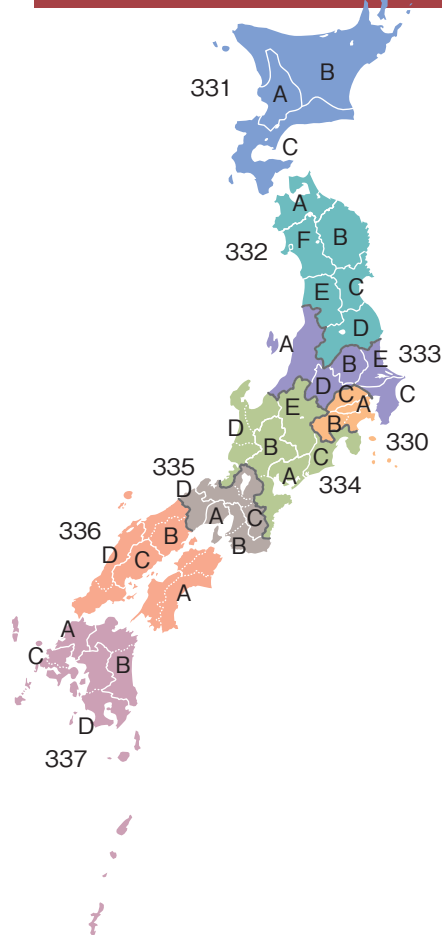
最近、日本の70歳以上の高齢者数が2千万人を超えたと発表されました。ライオンズ・メンバーには、高齢化はあっても、奉仕への心の老齢化はないと信じています。恥ずかしい話ですが、私は年齢を重ねた今でも、いらつくことや落ち込むことがあります。ストレスを溜めないよう、自己管理しながら調整をしております。若い頃ほど体が動かなくても、老化を防ぐために出来る限り新しいものへも挑戦するよう心掛ける日々には充実感が感じられます。

私にとっての「編集室」は、明るく交わされる何気ない言葉の中にも、包容感と柔らかな雰囲気いっぱいのところです。それが私には活力として吸収されて、世の中が幅広く見える気がします。

日本のライオンズ

2008.9.30　各地区キャビネット事務局集計

地区	都道府県	■クラブ数	期首からの増減	■会員数	期首からの増減
330-A	東京	202	0	5,181	32
330-B	神奈川・山梨・東京	191	-2	5,333	106
330-C	埼玉	104	0	2,804	30
330	計	497	-2	13,318	168
331-A	北海道（道央）	77	0	2,763	24
331-B	北海道（道北・道東）	93	0	2,768	12
331-C	北海道（道南）	60	0	1,952	2
331	計	230	0	7,483	38
332-A	青森	68	0	1,966	-9
332-B	岩手	55	0	1,760	33
332-C	宮城	82	0	1,569	12
332-D	福島	77	0	2,120	21
332-E	山形	58	0	1,919	-11
332-F	秋田	52	0	1,326	-10
332	計	392	0	10,660	36
333-A	新潟	80	0	3,046	29
333-B	栃木	57	0	1,441	13
333-C	千葉	135	0	3,613	10
333-D	群馬	56	0	2,070	23
333-E	茨城	81	0	3,047	-11
333	計	409	0	13,217	64
334-A	愛知	120	1	5,833	67
334-B	岐阜・三重	87	0	3,959	58
334-C	静岡	84	0	3,392	24
334-D	富山・石川・福井	101	0	4,312	45
334-E	長野	53	0	2,225	29
334	計	445	1	19,721	223
335-A	兵庫（東）	109	0	2,938	42
335-B	大阪・和歌山	204	-1	6,750	65
335-C	滋賀・京都・奈良	122	0	4,410	44
335-D	兵庫（西）	66	0	2,152	13
335	計	501	-1	16,250	164
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	156	0	6,172	-7
336-B	鳥取・岡山	99	0	3,562	22
336-C	広島	104	-1	3,934	27
336-D	島根・山口	105	0	3,507	11
336	計	464	-1	17,175	53
337-A	福岡・長崎	118	0	4,821	84
337-B	大分・宮崎	82	0	2,597	12
337-C	佐賀・長崎	84	0	3,121	5
337-D	熊本・鹿児島・沖縄	144	0	4,376	5
337	計	428	0	14,915	106
総計		3,366	-3	112,739	852
世界のライオンズの		7.5%		8.6%	

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2008.9.30　国際協会集計

ライオンズ国または領域	202
世界のクラブ数	44,983
世界の会員数	1,304,381
期首からの増減	-1,271

国	クラブ数	会員数
アメリカ	12,803	378,155
インド	5,163	159,543
日本	3,385	112,738
韓国	1,976	83,397
イタリア	1,311	50,024

ライオン誌12月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価１８０円　送料実費76円
２００８年(平成20年)11月20日発行　毎月１回20日発行　第51巻第６号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒１０４-００４５東京都中央区築地２-２-１　築地細田ビル７階　Tel ０３-３５４２-９５７１
印刷所　凸版印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい！

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lionsclubs.org/JA/content/lions_lcif.shtml